

(令和4年度実施)

「あいちの新たな社会教育のあり方の実現に向けた調査」

(社会教育委員 回答編)

調査基準日：令和4年5月1日



(令和4年度実施)
「あいちの新たな社会教育のあり方の実現に向けた調査」の実施について

1 調査の趣旨

人生100年時代やSociety 5.0、また、新型コロナウイルス感染症や自然災害等への対応といった社会の変化や課題に対応する「あいちの新たな社会教育のあり方」を、以下の2つの視点での調査により明らかにする。

- ・調査1：平成26年度実施の実態調査との経年比較
- ・調査2：現在や今後求められる社会の変化への対応に対する社会教育のあり方への調査

2 調査対象

本調査は、「社会教育委員担当事務局」及び、「社会教育委員」を対象として行う。回答は、それぞれ以下の方に依頼した。

○社会教育委員担当事務局

市町村における社会教育担当部局での課長補佐級以上（1名）

○社会教育委員

市町村に所属する社会教育委員（全員：608人）

※本冊は、「社会教育委員」の回答を集約したものである。

3 調査基準日

令和4年5月1日

4 回答数

460通（回答率75.7%：全608人）

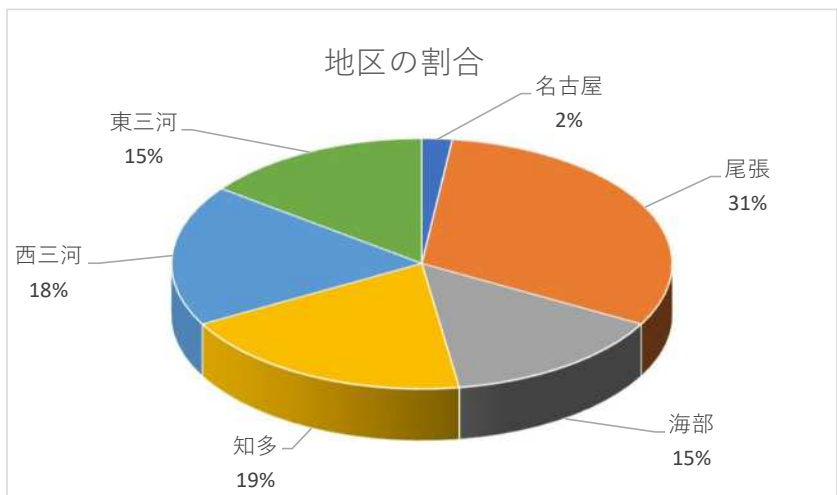
調査 1
「社会教育委員に係る実態調査」

問1 貴市町村の地区はどこですか。

地区名	回答数	割合
名古屋	9	2%
尾張	143	31%
海部	67	15%
知多	89	19%
西三河	84	18%
東三河	68	15%
計	460	100%

★記述1 市町村名を記述してください。

地区	市町村	回答数	地区	市町村	回答数	地区	市町村	回答数
名古屋	名古屋市	9	海部 67	津島市	5	西三河 84	岡崎市	10
尾張 143	一宮市	13		愛西市	16		碧南市	9
	瀬戸市	6		弥富市	9		刈谷市	7
	春日井市	3		あま市	11		豊田市	0
	江南市	13		大治町	10		安城市	10
	小牧市	10		蟹江町	10		西尾市	10
	稲沢市	12		飛島村	6		知立市	11
	犬山市	9	半田市	10	高浜市	6		
	尾張旭市	9	東海市	14	みよし市	5		
	岩倉市	10	常滑市	7	幸田町	16		
	豊明市	6	知多 89	大府市	12	東三河 68	豊橋市	9
	日進市	3		知多市	7		豊川市	11
	北名古屋市	3		阿久比町	9		蒲郡市	9
	清須市	6		東浦町	9		田原市	12
	長久手市	9		美浜町	5		新城市	10
東郷町	13	武豊町		9	設楽町		7	
豊山町	1	南知多町		7	東栄町		9	
大口町	8			豊根村	1			
扶桑町	9							



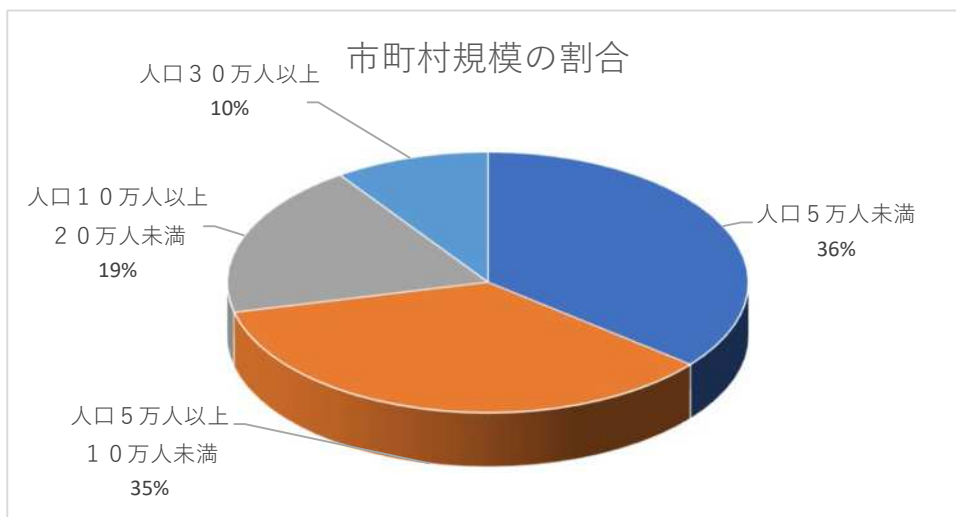
問2

貴市町村の「まち」の規模についてお伺いします。該当するものを選んでください。

区分	回答数	割合
人口5万人未満	164	36%
人口5万人以上 10万人未満	162	35%
人口10万人以上 20万人未満	90	19%
人口20万人以上 30万人未満	0	0%
人口30万人以上	44	10%
計	460	100%

(「まち」の規模別内訳)

区分	市町村名					
人口5万人未満 (19市町村)	岩倉市	東郷町	豊山町	大口町	扶桑町	
	弥富市	大治町	蟹江町	飛島村	阿久比町	
	美浜町	武豊町	南知多町	高浜市	幸田町	
	新城市	設楽町	東栄町	豊根村		
人口5万人以上 10万人未満 (20市町村)	江南市	犬山市	尾張旭市	豊明市	日進市	
	北名古屋市	清須市	長久手市	津島市	愛西市	
	あま市	常滑市	大府市	知多市	東浦町	
	碧南市	知立市	みよし市	蒲郡市	田原市	
人口10万人以上 20万人未満 (9市町村)	瀬戸市	小牧市	稲沢市	半田市	東海市	
	刈谷市	安城市	西尾市	豊川市		
人口20万人以上 30万人未満 (0市町村)						
人口30万人以上 (6市町村)	名古屋市	一宮市	春日井市	岡崎市	豊田市	
	豊橋市					

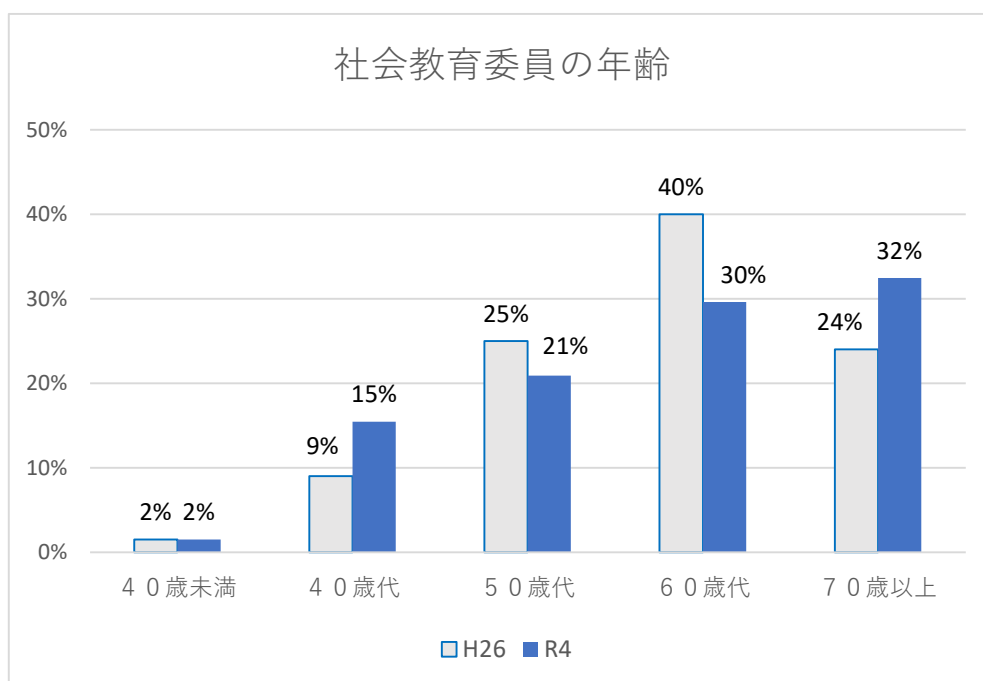


問3

あなたの年齢を教えてください。

	区分	H26	R4	R4回答数
1	40歳未満	2%	2%	7
2	40歳代	9%	15%	71
3	50歳代	25%	21%	96
4	60歳代	40%	30%	136
5	70歳以上	24%	32%	149
	計	100%	100%	459

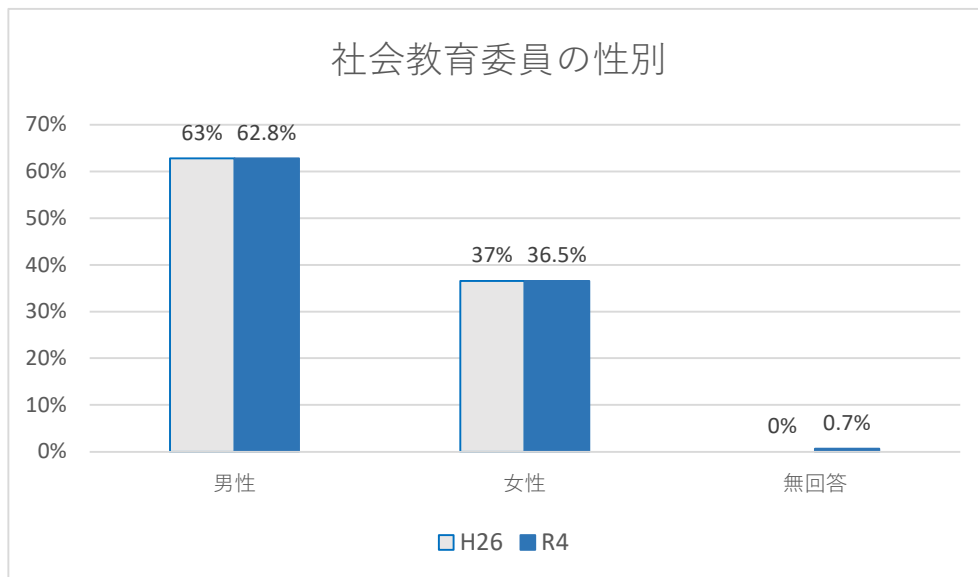
無回答 1



問4

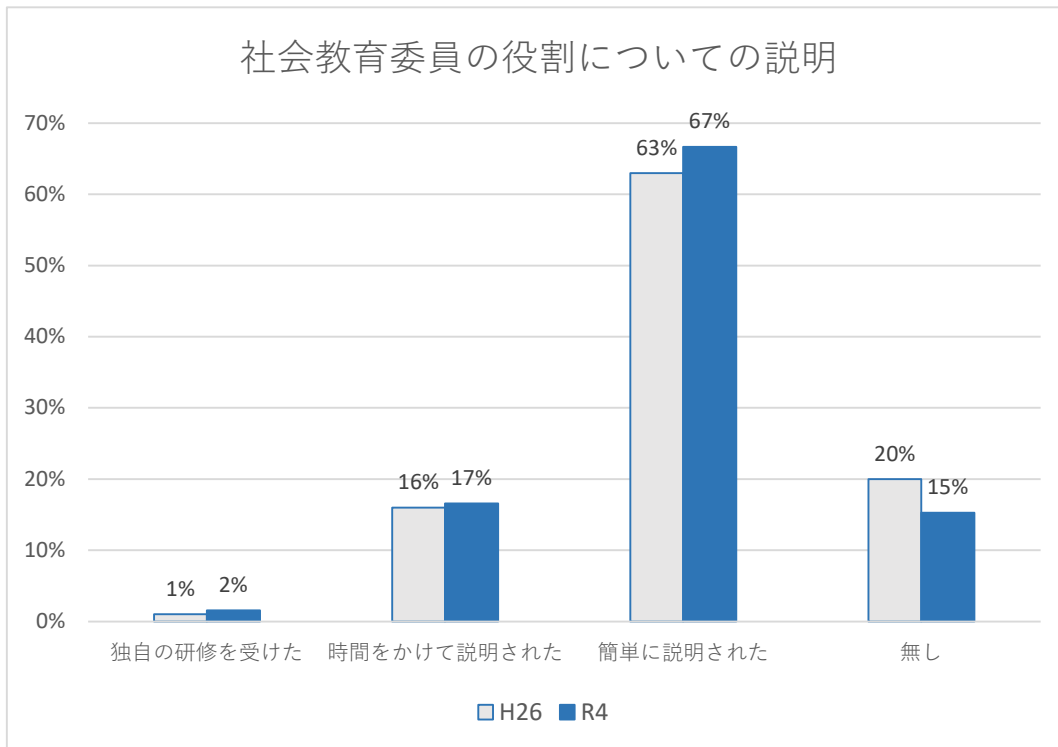
あなたの性別を教えてください。

区分	H26	R4	R4回答数
1 男性	63%	62.8%	289
2 女性	37%	36.5%	168
3 無回答	0%	0.7%	3
計	100%	100%	460



問5 就任時に事務局から社会教育委員の役割についての説明がありましたか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 独自の研修を受けた	1%	2%	7
2 時間をかけて説明された	16%	17%	76
3 簡単に説明された	63%	67%	306
4 無し	20%	15%	70
計	100%	100%	459



問6 あなたは次のうち、どの区分から選出されましたか。

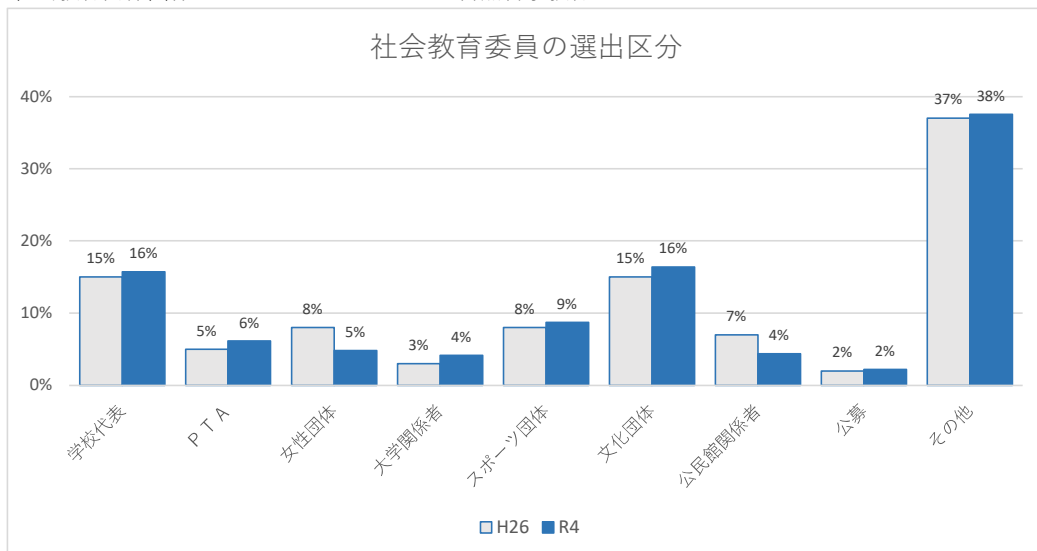
区分	H26	R4	R4回答数
1 学校代表	15%	16%	72
2 P T A	5%	6%	28
3 女性団体	8%	5%	22
4 大学関係者	3%	4%	19
5 スポーツ団体	8%	9%	40
6 文化団体	15%	16%	75
7 公民館関係者	7%	4%	20
8 公募	2%	2%	10
9 その他	37%	38%	172
計	100%	100%	458

無回答 2

★ 記述2 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

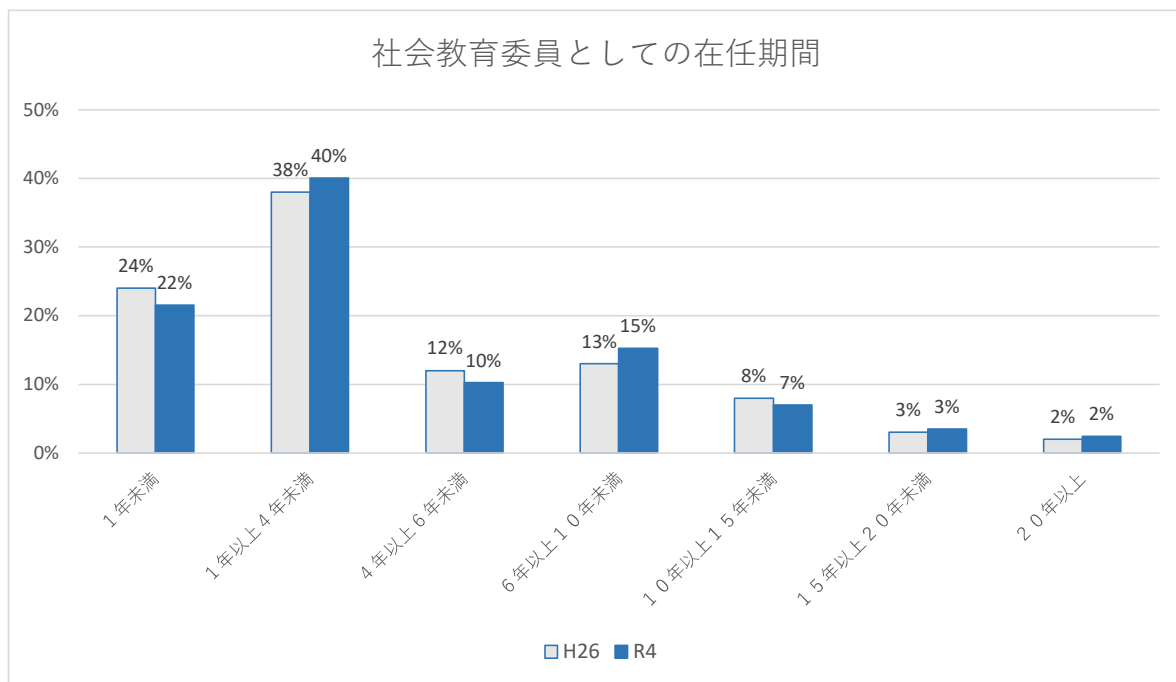
- ・ 子育て支援団体
- ・ 地区代表
- ・ 保育園関係
- ・ 文化財保護関係者
- ・ 男女共同参画推進活動団体
- ・ 市議会議員
- ・ 学識経験者
- ・ 教職経験者
- ・ 保育園代表
- ・ 子育て支援ボランティア
- ・ 学校運営協議会委員
- ・ 子ども会関係
- ・ 推薦
- ・ 子育てネットワーク
- ・ 一般企業
- ・ 民生・児童委員
- ・ おやじの会
- ・ 小学校区地域協議会の会長
- ・ 地域学校協働活動
- ・ 社会教育関係団体
- ・ 地域ボランティア
- ・ 医療従事者
- ・ 子育て支援施設で勤務
- ・ ボーイスカウト関係者
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 青少年育成団体
- ・ 労働者団体
- ・ 商工会
- ・ 青少年団体
- ・ 法律の専門家
- ・ 市民活動団体・特定非営利活動法人
- ・ 児童館サポーター
- ・ 教育委員
- ・ レクリエーション協会
- ・ 自治会代表
- ・ 老人クラブ
- ・ スポーツ推進委員
- ・ 一般社団法人青年会議所
- ・ 身体障がい者（身体障がい者福祉協議会）
- ・ 自然科学教育



問7 社会教育委員としての在任期間はどれだけですか。（令和4年5月1日現在）

区分	H26	R4	R4回答数
1 1年未満	24%	22%	99
2 1年以上4年未満	38%	40%	184
3 4年以上6年未満	12%	10%	47
4 6年以上10年未満	13%	15%	70
5 10年以上15年未満	8%	7%	32
6 15年以上20年未満	3%	3%	16
7 20年以上	2%	2%	11
計	100%	100%	459

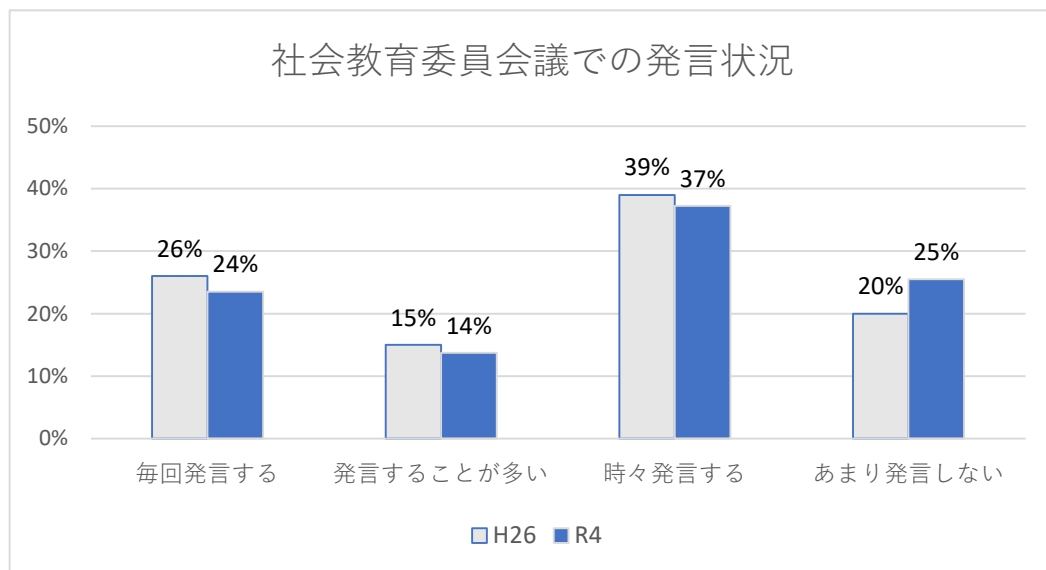
無回答 1



問8 会議での発言状況はどうか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 毎回発言する	26%	24%	108
2 発言することが多い	15%	14%	63
3 時々発言する	39%	37%	171
4 あまり発言しない	20%	25%	117
計	100%	100%	459

無回答 1

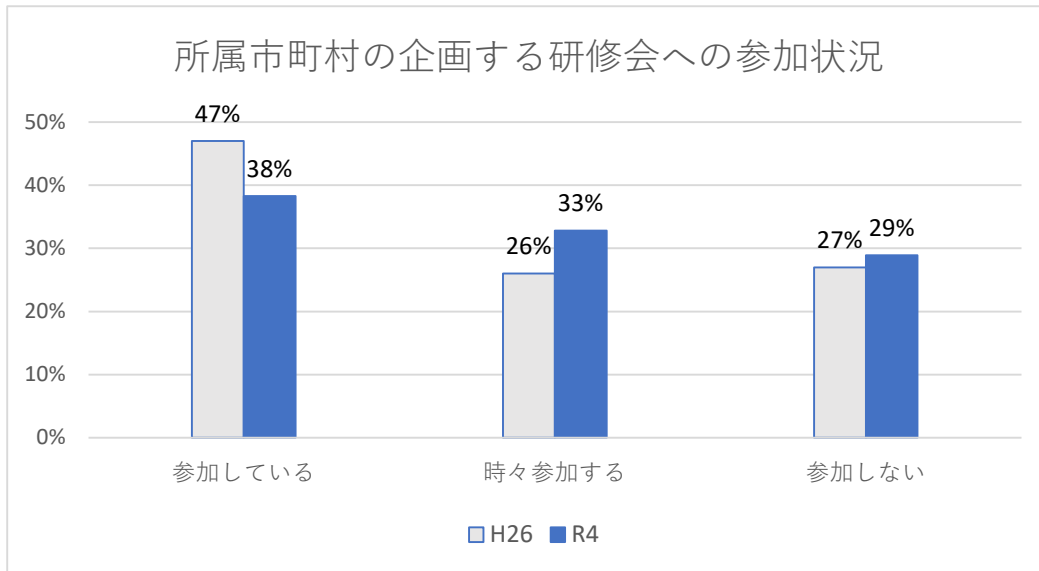


問9

所属市町村の企画する研修会に参加していますか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 参加している	47%	38%	175
2 時々参加する	26%	33%	150
3 参加しない	27%	29%	132
計	100%	100%	457

無回答3



問10 前問で「2 時々参加する、3 参加しない」と答えた理由は何ですか。

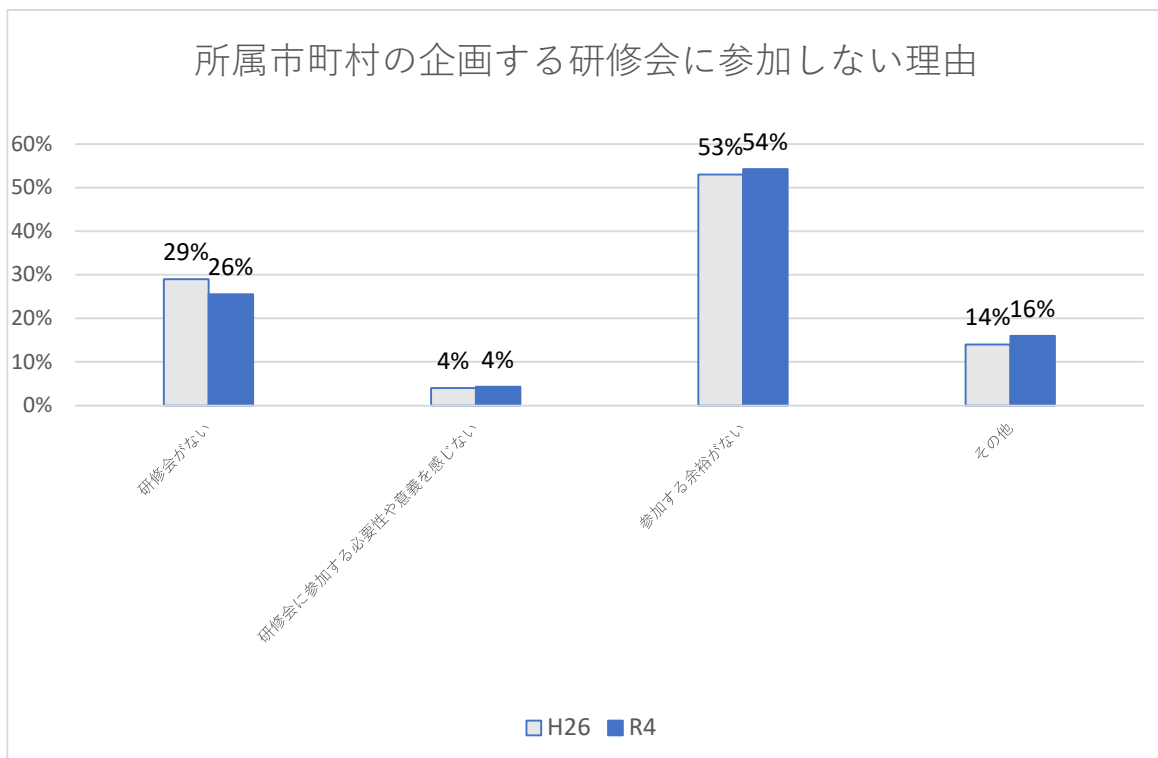
区分	H26	R4	R4回答数
1 研修会がない	29%	26%	72
2 研修会に参加する必要性や意義を感じない	4%	4%	12
3 参加する余裕がない	53%	54%	153
4 その他	14%	16%	45
計	100%	100%	282

対象282名

★ 記述3 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ 開催される時間が、勤務時間と重なっている。
- ・ 仕事で時間がとれない。
- ・ コロナ等で、研修の機会が中止等になったから
- ・ コロナ禍での参加は必要と思わない。
- ・ コロナ感染拡大により活動自粛
- ・ コロナ禍でリモートになると参加意欲がなくなってしまう。
- ・ 参考になる事だと思ったら参加する。
- ・ 研修の機会があるのかどうか分からない。
- ・ 参加しても内容が理解できない。新人研修をしてほしい。
- ・ 研修会のメニューがわからない。
- ・ 研修会のありなしを認識していない



問11

参加を希望する研修テーマは何ですか。（3つまで複数回答可）

※H26調査では、「3つまで複数回答可」の指示なし

	選択肢	H26	R4	R4回答数
1	地域の活性化	33%	65%	301
2	子育て・家庭教育	16%	37%	172
3	青少年教育	12%	30%	139
4	情報化社会への対応	5%	19%	89
5	学社連携・学社融合	9%	24%	110
6	高齢化社会への対応	10%	30%	136
7	社会教育委員の役割	14%	28%	129
8	人権教育	/	7%	32
9	環境教育		11%	50
10	消費者教育		2%	7
11	男女共同参画社会の実現への対応		7%	32
12	孤立・孤独対策		9%	41
13	その他	1%	2%	7
	回答者数	100%	—	460

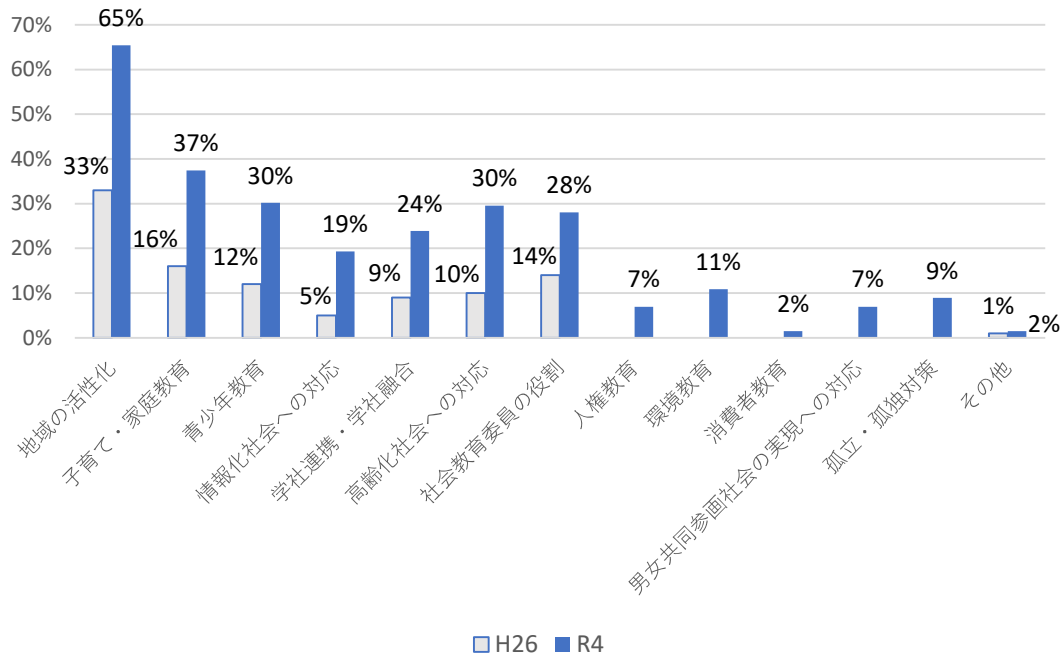
★ 記述4 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ 公民館等社会教育施設の充実
- ・ ダイバーシティ
- ・ キャリア教育
- ・ 日常の出来事を社会教育の視点で考えることについての研修
- ・ 地域の中での連携、どうつながるか。
- ・ 療育(障がいのある子どもの発達を支援する働きかけに関すること)

(グラフは次頁に掲載)

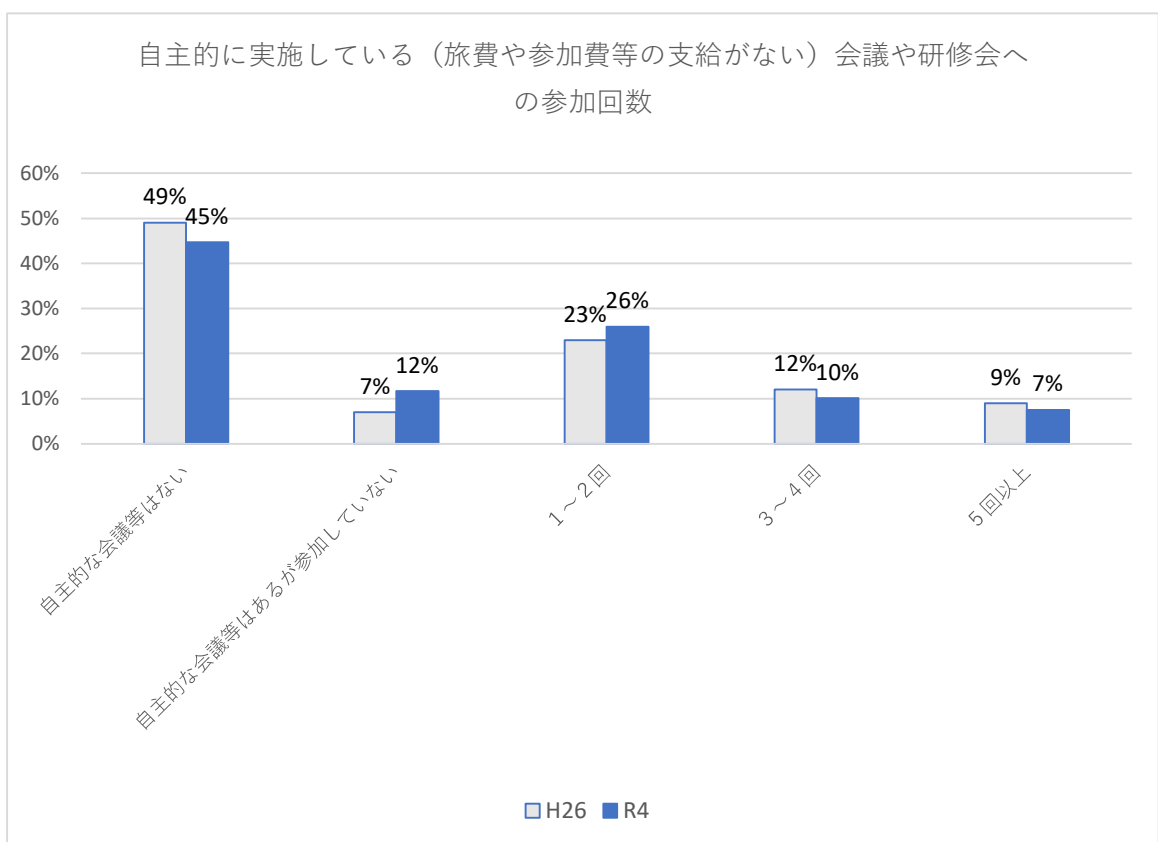
参加を希望する研修テーマ



問12 自主的に実施している（旅費や参加費等の支給がない）会議や研修会に何回参加していますか。
 （※令和3年度 ※1年目の方は就任からこれまで）

区分	H26	R4	R4回答数
1 自主的な会議等はない	49%	45%	203
2 自主的な会議等はあるが参加していない	7%	12%	53
3 1～2回	23%	26%	118
4 3～4回	12%	10%	46
5 5回以上	9%	7%	34
計	100%	100%	454

無回答6

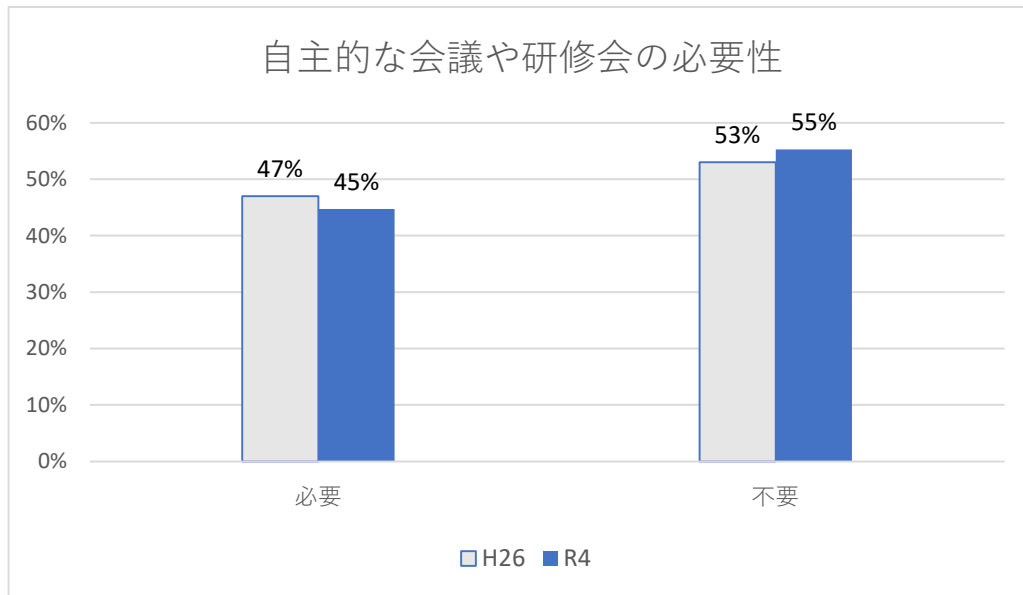


問13

前問で1「自主的な会議等はない」と答えた場合は、その必要性を感じますか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 必要	47%	45%	89
2 不要	53%	55%	110
計	100%	100%	199

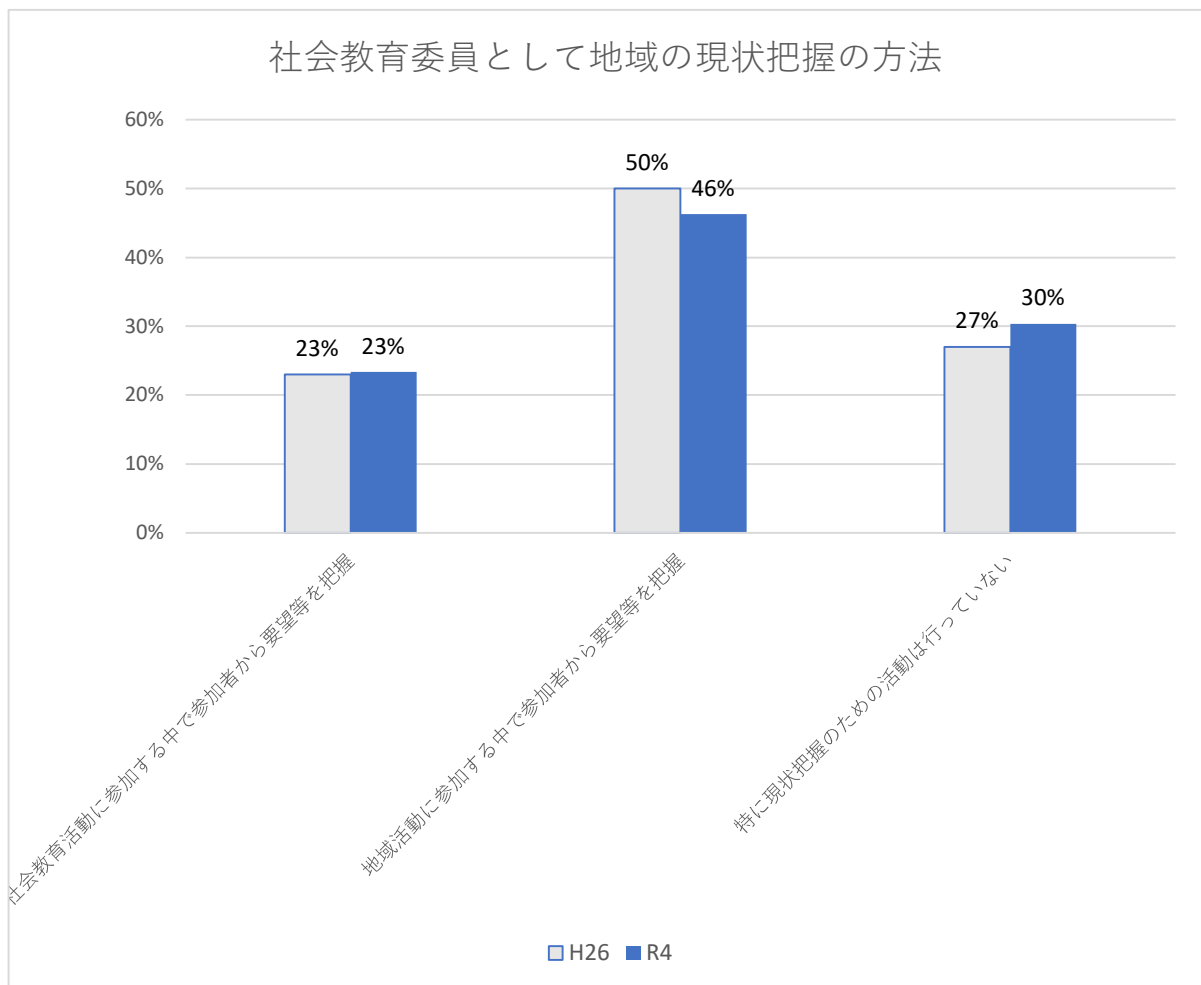
対象203名



問14 あなたは社会教育委員として地域の現状把握をどのように行っていますか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 社会教育活動に参加する中で参加者から要望等を把握	23%	23%	107
2 地域活動に参加する中で参加者から要望等を把握	50%	46%	212
3 特に現状把握のための活動は行っていない	27%	30%	139
計	100%	100%	458

無回答2

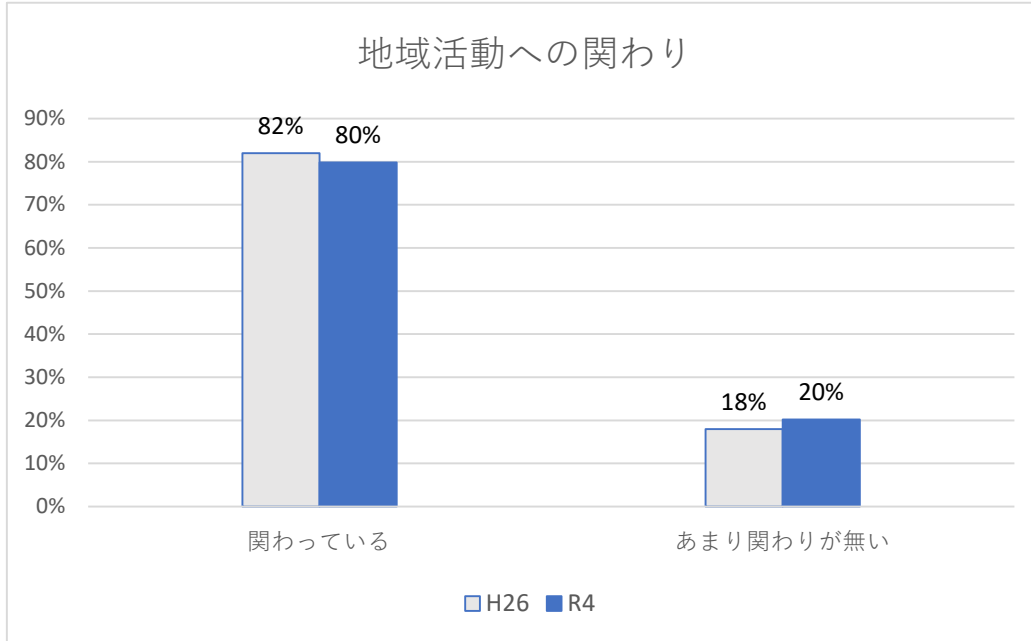


問15

あなたは御自分の地域への活動に関わっていますか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 関わっている	82%	80%	364
2 あまり関わりが無い	18%	20%	92
計	100%	100%	456

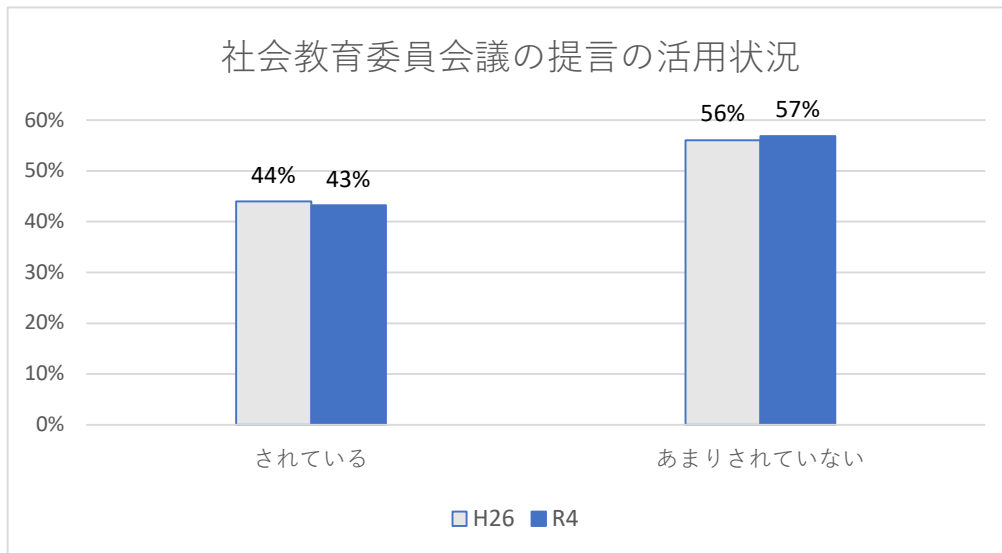
無回答4



問16 地域活動に社会教育委員会議の提言は活用されていますか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 されている	44%	43%	196
2 あまりされていない	56%	57%	258
計	100%	100%	454

無回答6



問17

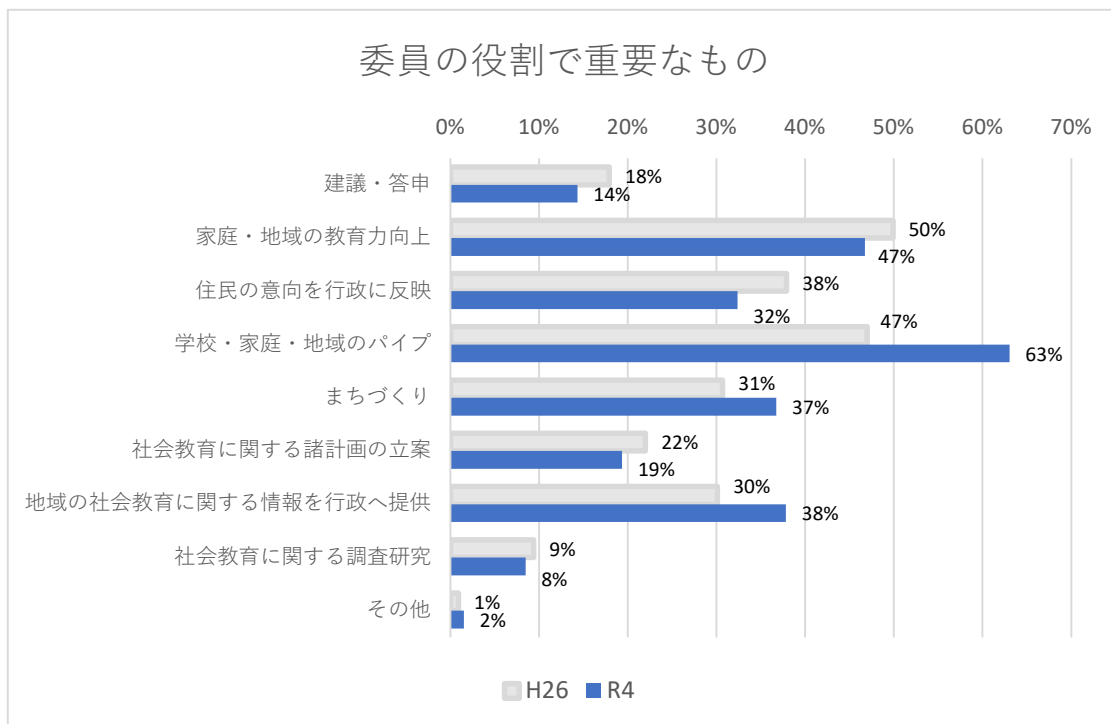
社会教育委員の役割の中で重要なものは何だと思えますか。
 (3つまで複数回答可)

選択肢	H26	R4	R4回答数
1 建議・答申	18%	14%	66
2 家庭・地域の教育力向上	50%	47%	215
3 住民の意向を行政に反映	38%	32%	149
4 学校・家庭・地域のパイプ	47%	63%	290
5 まちづくり	31%	37%	169
6 社会教育に関する諸計画の立案	22%	19%	89
7 地域の社会教育に関する情報を行政へ提供	30%	38%	174
8 社会教育に関する調査研究	9%	8%	39
9 その他	1%	2%	7
回答者数	—	—	460

★ 記述5 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

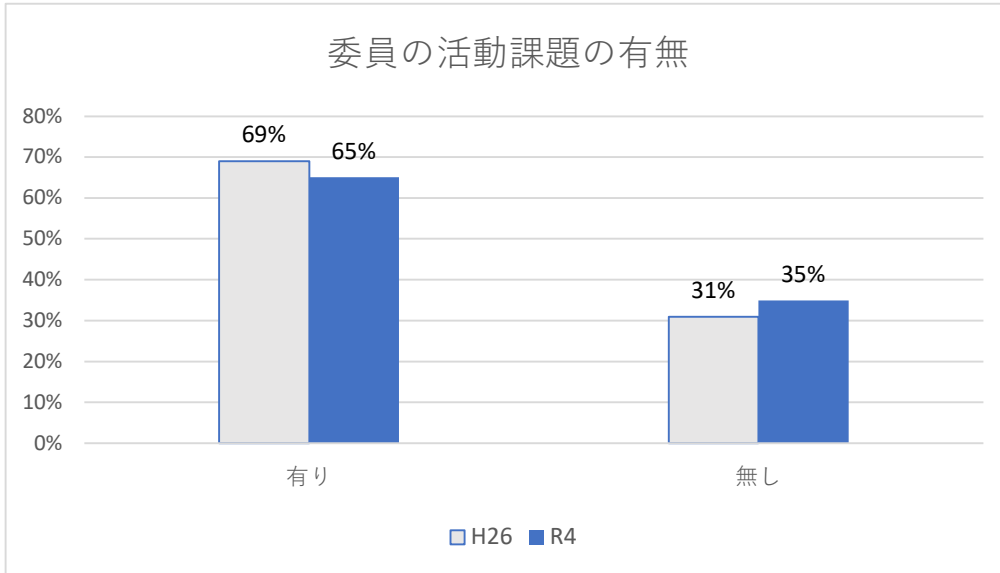
- ・ 実情に合わせた無理のない取組
- ・ 人づくり
- ・ 日常の出来事を社会教育の視点で考え、その評価について情報発信することの大切さを、行政等の施策や事業推進を通じて行うように働きかけること
- ・ 高齢者の元気力アップ、コロナ禍のための地域内でのつながり激減対策
- ・ 自分の役割が分からないので答えようがない。
- ・ 地域色豊かなまちづくり（地域学・地元学）の研究や、市の出入人口バランスの研究



問18 社会教育委員の活動について課題はありますか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 有り	69%	65%	294
2 無し	31%	35%	158
計	100%	100%	452

無回答8



問19

前問で「有り」と答えた方にお聞きします。下のどれにあてはまりますか。（3つまで複数回答可）

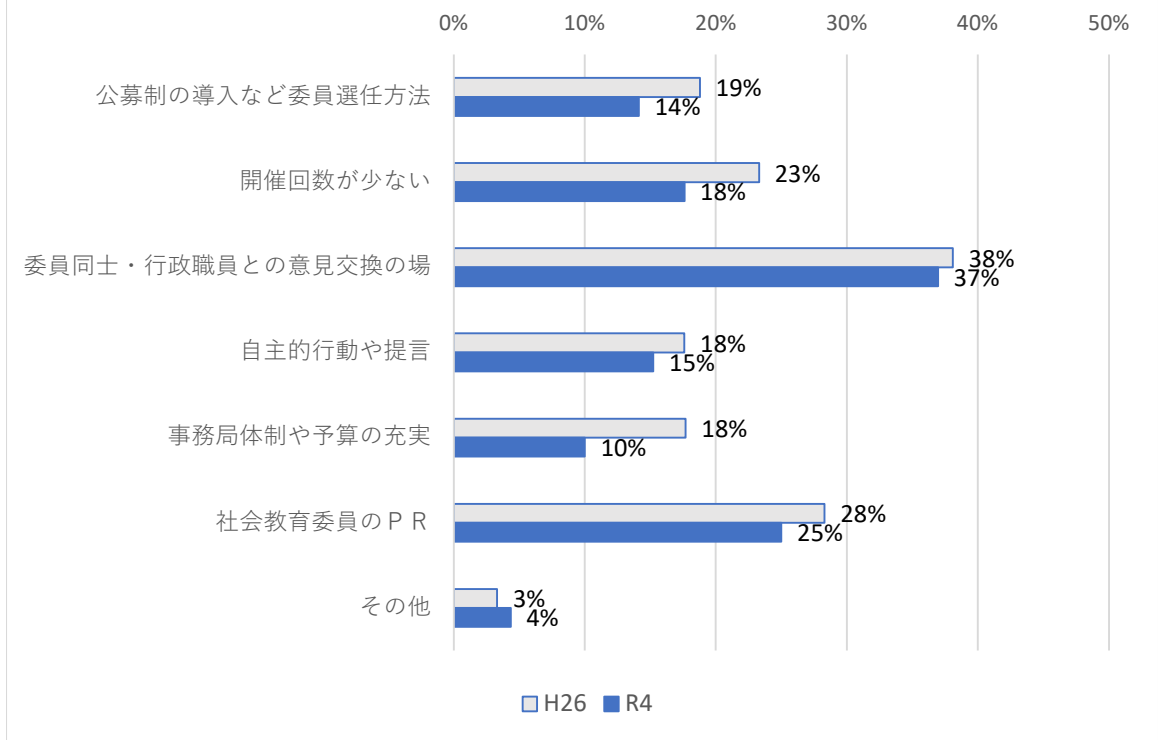
	選択肢	H26	R4	R4回答数
1	公募制の導入など委員選任方法	19%	14%	65
2	開催回数が少ない	23%	18%	81
3	委員同士・行政職員との意見交換の場	38%	37%	170
4	自主的行動や提言	18%	15%	70
5	事務局体制や予算の充実	18%	10%	46
6	社会教育委員のPR	28%	25%	115
7	その他	3%	4%	20
	回答者数	—	—	460

★ 記述6 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ 現実的に仕事で平日開催の会議に参加できないので会議の在り方を検討すべき。
- ・ 「名前だけ役員」の方が目立つ。（責任感がない）
- ・ 自分自身の意識の低さが申し訳ない。
- ・ 場の設定も会議内容も形式的な開催となっている。
- ・ ほぼ生涯学習講座についての審議のみであり、社会教育についてのより幅広い議論が必要
- ・ 社会教育委員の役割や期待について説明がない。
- ・ 「社会教育」の範囲が広く、わからないことが多い。
- ・ 日常の出来事を社会教育の視点で考え、その評価について情報発信することをしないかぎり、いろいろな取組を現状を変えることにつなげるのは難しいのではないか。
- ・ 本市では、公民館は会場を貸し出す事業が中心で、公民が主体となる講座のような事業が行われていない。つまり社会教育委員としての本来的な活動ができない。
- ・ 会議等での提案が、市議会の場や議員に届いていないと思う。
- ・ 社会教育委員の認知度が低い。
- ・ 社会教育委員としてどのようなことができるかわかっていない。
- ・ 審議会での発言に対する実務的対応が不明
- ・ 諮問機関としての活動しかなく、委員会の存在意義のある活動ができていない。
- ・ コロナ禍で活動が制限されている。
- ・ 大半の委員が1～2年で交代。腰掛けの色合いが強い。
- ・ 会議や研修の開催予定日をもう少し前もって教えてほしい。

課題についての内容

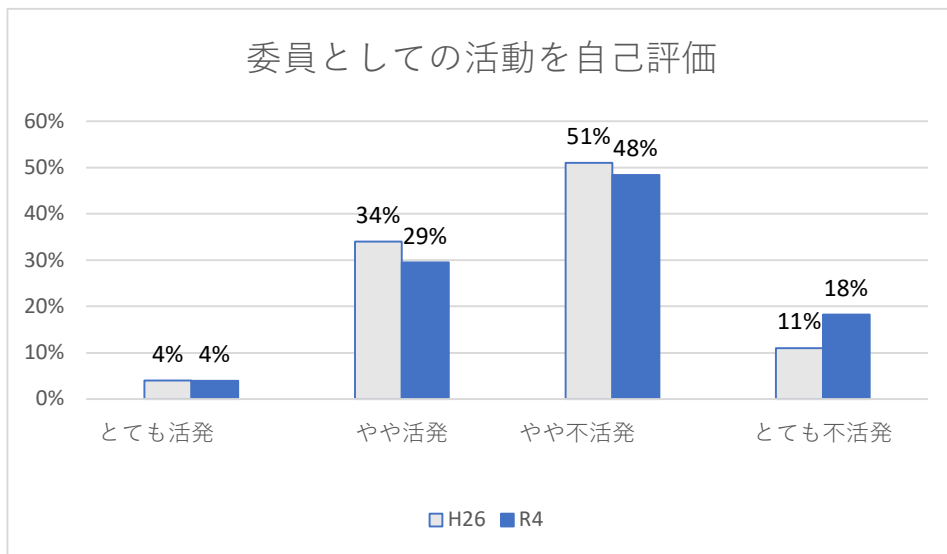


問20

社会教育委員としての活動の様子についてお伺いします。あなたは社会教育委員としての活動を自己評価すると、次のうちどれにあてはまると思いますか。

区分	H26	R4	R4回答数
1 とても活発	4%	4%	18
2 やや活発	34%	29%	134
3 やや不活発	51%	48%	220
4 とても不活発	11%	18%	83
計	100%	100%	455

無回答5



★ 記述7 社会教育委員として、特徴的な活動や、工夫している点、意識している点があれば、御記入ください。

・	地域の現状や住民の意向をよく把握し、行政に伝え提案すること
・	ボランティア活動を通じて、住民のつながりや地域課題の情報収集に努めている。
・	ボランティア活動を通じて、高齢者や子供たちの交流の場づくりに努めている。
・	子どもの目線で子どもの声を地域で伝えることを意識している。
・	地域の繋がりを大切にしている。
・	平日開催のものは、仕事との両立が難しい時もあるが、オンライン開催になったものは、移動時間など拘束時間が少ないので参加するようにしている。
・	地域のふるさとづくり活動等を軸に審議会で発言するようにしているが、まだまだ自分自身が勉強不足で、社会教育委員としての活動について模索中である。
・	新しく社会教育委員になった人のために職務等について資料を作成した。
・	社会教育委員になってまだ間もない（今年度より）為、その役割、及び活動についてこれから勉強していく段階にある。
・	地域での課題を具体的に社会教育審議会で伝えること、広く情報収集をすることを意識している。
・	社会教育活動を実施しているところに見学に行く。
・	市との連携協働で、障がい者の学校卒業後の学びの支援に関する文科省の実践研究事業を行っている。これがきっかけで市の生涯学習推進計画の改定に伴い、障がい者の生涯学習について重点項目として計画に反映できた。
・	毎日の生活の中で繋がる人たちとこの地域の社会問題や、教育の話を可能な限りするように心がけている。
・	博物館等の文化施設ならびに地域の文化財の保存と普及、活用
・	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関わり、次世代育成やまちづくり、地域課題を具体的に活動に繋げている。
・	地域の（ひとの）潜在的な力をエンパワーしながら、主体的な活動を行っていくことを意識している。
・	社会教育委員会の内容や方針などを他の地域活動に生かすようにしている。
・	コロナで活動が自粛気味であったところ、改めて活性化されるように努めている。
・	大学と地域社会の連携
・	常に問題意識を持って会議に参加し、自分の地域に合わせた社会教育を見つけようと動き出している。
・	批判ではなく、建設的で効果的な提言ができるよう心がけている。
・	関連する研修に積極的に参加しようと努めている。
・	社会教育の発展と持続のために、若年層の継続的な参加という点を意識して活動している。

<ul style="list-style-type: none"> 自分のできる範囲で、地域のスポーツイベント、草取りボランティア、子ども会のスポーツ指導などに参加し、現場の様子を感じられるように努めている。また、その際には、1人でなく、友人を誘うようにもしている。
<ul style="list-style-type: none"> 市の広報や新聞にこまめに目を通したり、社会教育施設に積極的に足を運んだりしている。
<ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体や市民と目線を合わせて一緒に活動して、要望、困っていること、こうしたい！という思いを、聞き、拾い、考え合い、行政に届けるということを意識している。
<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児から高齢者まで様々な年齢の人々と接することができる場への参加（その場は多岐にわたります）
<ul style="list-style-type: none"> 必ず会議では、毎回一度は発言することを意識している。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の自治体や町内会等の活動を含め、自分の周りでの出来事を社会教育の視点で考えたり、自分なりの評価を自治体の担当課、自治会関係者等に伝えたり、会議で発言したりすることで、この気運を高めるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> 地域に愛着を持つ個人や団体の活動や思いを繋げて、特色ある街の魅力を発掘して街の活性化に取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> 超少子高齢社会での地域の在り方を意識している。
<ul style="list-style-type: none"> 地域連携が大切だと思うのでイベントには参加し人と人を繋ぐ架け橋となるよう声掛けを心掛けている。
<ul style="list-style-type: none"> 委員会には常に課題を持って出席している。
<ul style="list-style-type: none"> 祭り保存や伝承活動など、持続可能な社会の仕組みづくりを常に考えながら、課題解決に取り組み、参画する人材の育成に努めている。
<ul style="list-style-type: none"> 茶華道を通して人と人のマナー、思いやりのできる人を育てたい。
<ul style="list-style-type: none"> 社会教育委員のあること自体を市民は知っている人が少ないということを意識して啓発している。
<ul style="list-style-type: none"> 図書館の代表としての社会教育委員として、地域の人々が集える図書館、地域の情報を発信できる図書館等を意識している。
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習の原点は、家庭教育にあることを伝えている。
<ul style="list-style-type: none"> 市民が関心を引き付けるような広報誌を発行している。
<ul style="list-style-type: none"> 新しく社会教育委員になった人のために職務等について資料を作成した。
<ul style="list-style-type: none"> 町の文化の灯が長く続くよう、次世代につながる社会教育委員でありたい。
<ul style="list-style-type: none"> 社会教育委員の活動範囲があまりにも広いので、総花的にならないよう、自分の関係するものに特化し、活動を掘り下げている。
<ul style="list-style-type: none"> 社会教育に関する研修会には積極的に参加するようにしている。

★ 記述8 社会教育委員として、今後、どのようなことをやりたいですか。

・ 高齢化孤立社会を迎え、生きがいを持って、生涯この地域で暮らしていけるためのネットワークに関わっていきたい。
・ 地域と行政の関係性を密にしたい。
・ 地域の課題を行政に反映させる。
・ 地域の文化財を巡る意識向上にむけての啓発
・ 中学卒業後の引きこもりの子どもたちへの支援の充実
・ 家庭教育推進、産後の母親への支援、地域住民による赤ちゃん訪問、子どもアドボケイト（子どもの声を聴き、支援をする人）
・ 地域に誇りを持てるようにしたい。
・ 家庭、学校、地域が連携して教育していくという事の必須性、重要性を再確認して活動していきたいと思う。
・ 社会教育委員の役割についての勉強をしたい。
・ 各々の学びを地域に還元できるような仕組みづくり
・ 現在取り組んでいる閉校した学校を拠点としたふるさとづくり活動を軸にしなが ら、地域学校協働組織といった観点から、学校と連携した社会教育活動の在り方 を見直していきたい。
・ 地域の中で、小学校と協力をして、社会教育委員会を地域の中核とすること
・ 学校と社会教育とのつなぎになりたい。
・ 地域学校協働活動を推進するための提言
・ 学校の児童生徒が社会活動に参画し、町づくりについて考える場をもつこと
・ 子育てネットワーカー、放課後子ども教室スタッフとして関わっていきたい。
・ 学校・家庭・地域のパイプをより太いものにするために情報発信に力を入れてい きたい。
・ 現在、スポーツを通して青少年の健全育成に取り組んでいるが、その経験をふま えて何ができるか、これから模索していきたい。
・ 地域の小学校の地域コーディネーターを委嘱されているので、地域の人が得意な 事、趣味、を生かしてゲストティーチャーになってもらい、子どもたちに1日体験 講座も行っている。これも一つの社会教育だと思う。
・ 子供達やその親との対話を持ちたい。関係者だけで集まって話すことは社会問題の 解決にも改善にもつながらない。
・ コミュニティ・スクールを通じた各地域力の向上でここに住んで良かったなと思っ て頂けるような一助ができればと思う。
・ 国際交流の活性化
・ コロナのために落ち込んだ地域や住民のために、どのように活性化することができ るか考えていきたい。
・ コロナで生活様式が変化、社会情勢が必要としていることに目を向けたい。

・	コロナ禍でも直にコミュニケーションをとれる方法を工夫し進める。
・	ウィズコロナ、アフターコロナで、いかに学校教育、家庭教育、社会教育の三者を繋げていくかを実践的に進めたい。
・	博物館等の文化施設ならびに地域の文化財の保存と普及、活用についての提言等
・	委員1年目で学んだことを2年目に活かしたい。
・	学びとネットワークをすること。現状の把握をしつつ、この地域の特質を知り、問題点を課題化して地域の多様な個人や団体とのネットワークにより多角的に問題解決に向けて取り組んでいきたい。
・	居住地が高齢化しているため 情報伝達の方法などを把握・検討していきたい。
・	大学と地域社会の連携
・	他の地域と交流ができるとさらに視野や感覚が広がり、会議だけで終わらせない社会教育委員のイメージがつかめると思う。
・	伝統芸能（棒の手）の継承に女性参加を進めていきたい。
・	お年寄りから若い世代まで生涯学習といった学びの大切さを知ってもらい広めていきたい。
・	地域でボランティアとして活動をしているグループなどを調査し、多くの人の参加促進や行政の関わりについて考えてみたい。
・	地域における社会教育活動の実態について見聞を深めたい。
・	地域の小学校の集団下校時の交通、見守りボランティア活動が広く地域に伝わり、住民が関心を持ち、「地域の子どもは地域で見守る」という、子ども達にとって安心安全な町づくりに貢献したいと思っている。
・	人々が誰でも立ち寄れる場所づくりを目指して、団体や有志にとってもやりがいのある役割づくりと学習会の開催をしたい。
・	講座を受講するなど、学びを続けたい。
・	中学校区ごとの中学生、高校生と地域住民の防災訓練、炊き出し、要支援者等の避難等の訓練実施
・	18歳新成人との関わり、18歳成人の相談役
・	幅広い年齢層による音楽活動
・	できれば、自ら立案した文化的活動を行ってみたい。
・	様々な場で社会教育委員の存在を紹介し、意義や活動を知ってもらうこと
・	地域のためにお役に立てるならば、社会、特に弱者のために一緒に学びたい。頑張りたい。
・	障がい者スポーツ交流
・	子どもがSDGsへの関心を示す取組
・	P T A 会員へ社会教育委員活動の紹介
・	独居老人、ひとり親家庭の子どもなど弱い立場の人たちが関心をもつようなイベントを企画していきたい。
・	地域の先人が育んだ歴史、文化などの学びと継承

・	GIGAスクール構想の中で、子どもたちが機器の操作を学習し、使いこなし始めている。今後、高齢者がICTを使えるように、学校で学んだ子どもたちから教えてもらう機会をつくりたい。
・	社会教育計画の策定に携わること、まちづくり系のワークショップ
・	町の教育委員との意見交換
・	図書館を代表しての社会教育委員として、暮らしやすい市になるよう、公民館と図書館の連携など、絵本の読み聞かせを通してつながっていったらよいと思っている。私のできるささやかなことから。
・	地域の子供達が集える公民館作り
・	町内会と学校が一体となった健全育成事業
・	子どもの自然体験活動による学習支援
・	若い世代へ繋げるための組織の改正、若い人の声を聞く体制づくり
・	民生委員及び自治会への積極的な情報提供

調査 2

「現在や今後求められる社会の変化への対応に対する社会教育のあり方への調査」

○ 社会的包摂の実現について

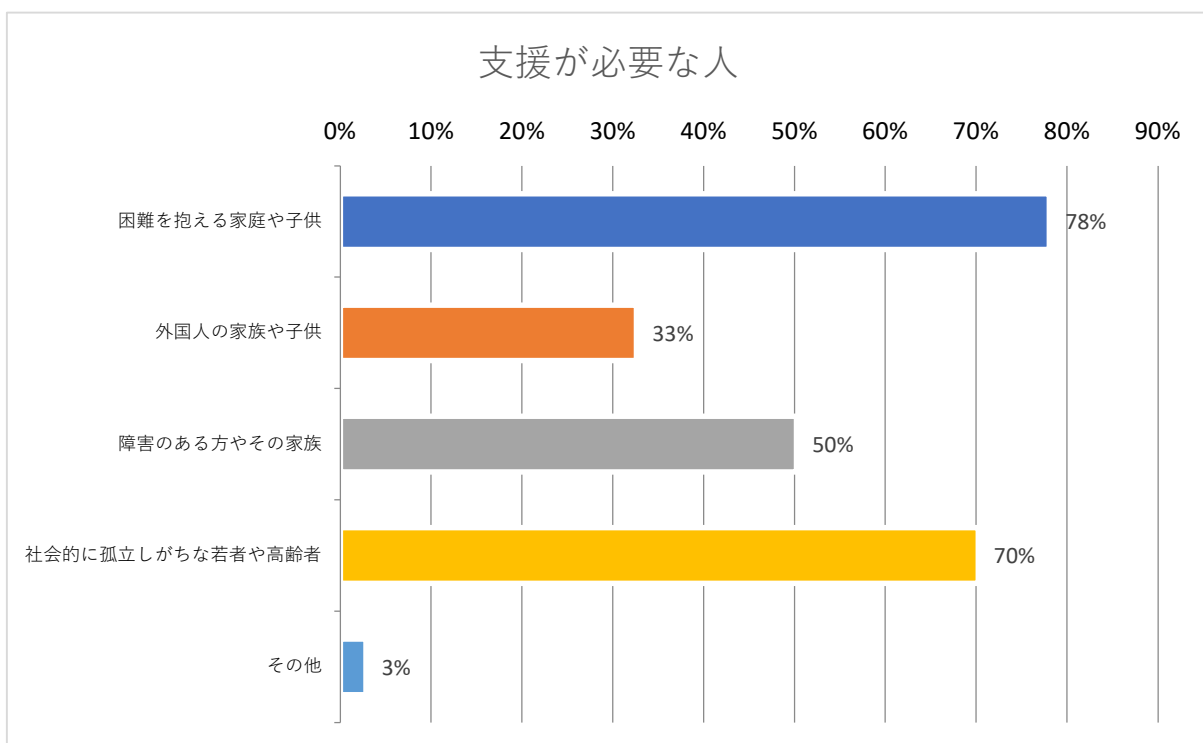
問21 あなたは、貴自治体において、様々な理由で困難を抱える人々について、特にどのような人々への支援が必要だと感じていますか。（3つまで複数回答可）

	選択肢	回答数	割合
1	困難を抱える家庭や子供	359	78%
2	外国人の家族や子供	150	33%
3	障害のある方やその家族	231	50%
4	社会的に孤立しがちな若者や高齢者	323	70%
5	その他	13	3%
	回答者数	460	—

★ 記述9 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ 選択肢の全ての人に支援が必要だと思うので選べない。
- ・ 子育て世代への支援
- ・ 不登校、ひきこもり、被虐待児
- ・ 支援事業からもれる人々。どんな事業・取組にも、必ずねらいがあるが、ねらいが期待する人間像にあてはまらない人は、その事業や取組からもれる可能性が高いと思う。
- ・ 普通の家庭、普通の人の支援（上記の人だけでなく）



問22

愛知県の若者や高齢者の単独世帯数は、2010年の923,424世帯（一般世帯に占める割合：31.5%）が2020年には1,175,221世帯（同：36.3%）と大きく増加をし、地域において社会的な孤立が懸念されます。そこで、このような社会的に孤立しがちな方に対して、あなたは、どのような支援が必要だと感じますか。（3つまで複数回答可）

※単独世帯：世帯主が一人の世帯

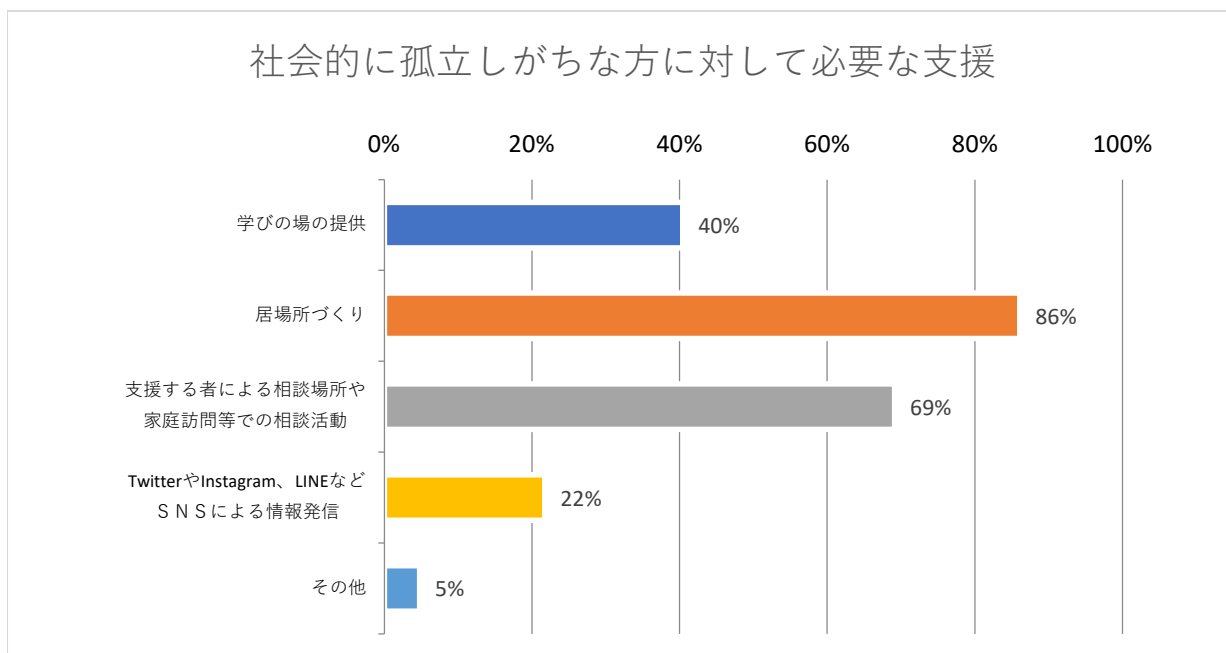
	選択肢	回答数	割合
1	学びの場の提供	186	40%
2	居場所づくり	396	86%
3	支援する者による相談場所や 家庭訪問等での相談活動	318	69%
4	TwitterやInstagram、LINEなど SNSによる情報発信	100	22%
5	その他	22	5%
	回答者数	460	—

★ 記述10 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ 金銭的な支援とサービスの提供体制確立
- ・ 成年後見制度の活用
- ・ サロン風な気軽に出入りできる公的場所（公民館）
- ・ 孤立する前に居場所と学んだり考えたりするための仕組みや、そうした場づくりをしている人たちへの活動支援
- ・ 人との繋がり
- ・ 孤立した若者や青年による事件が多いのは、これまで地域社会と関わり、その温かさを身をもって感じている機会があれば、そこに行き着くことはなかったと思う。自ら社会から距離を取ろうとする人が多くなっている。その壁を壊すのは、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動での関わりしかないと思う。
- ・ 学びの場も大切な居場所の一つである。
- ・ さまざまな人が気軽に参加できる魅力あるイベントや教室、講座
- ・ 単独世帯のひとたちが主となって活動できるようにサポートをする体制作り
- ・ 独居老人の家族環境を改善するにしても、とても厳しいものがある。大変ではあるが、ご近所や地域の中で孤立させないように、その地域の自治組織を組織化すること、市ではケアマネージャーを派遣するなど連携を持った活動を展開させたい。
- ・ 若者は対面以外のコミュニティを持っている方もいるので、これからの10年20年と長いスパンでのライフプランイメージを持つ訓練が必要かと思います。
- ・ 施策を考える側が、なぜ地域社会において孤立する人が出現するのかを考え学ぶ機会を持ち、現在の社会システムに批判的な意見を持つ視座を磨く。

- ・ バリアフリーの情報発信（情報弱者を減らすこと）
- ・ 直接訪問すること、そして何が出来るかを共に考える。
- ・ 内面的な社会的孤立者の支援
- ・ 必要性は感じるが本当に困ったとき周りに援助する仕組みがないのが問題。
- ・ かつての「隣組」のような結びつきを新しいスタイルで構築する。
- ・ 直接立ち入ることは難しいので当面は見守りに対応するのが実情である。
- ・ 医療連携
- ・ 付き添ってくださる人が必要



問23

地域全体で家庭教育を支える仕組み作りが重要となっている中、支援が届きにくい家庭に対して、あなたは、どのような支援が必要だと感じますか。（3つまで複数回答可）

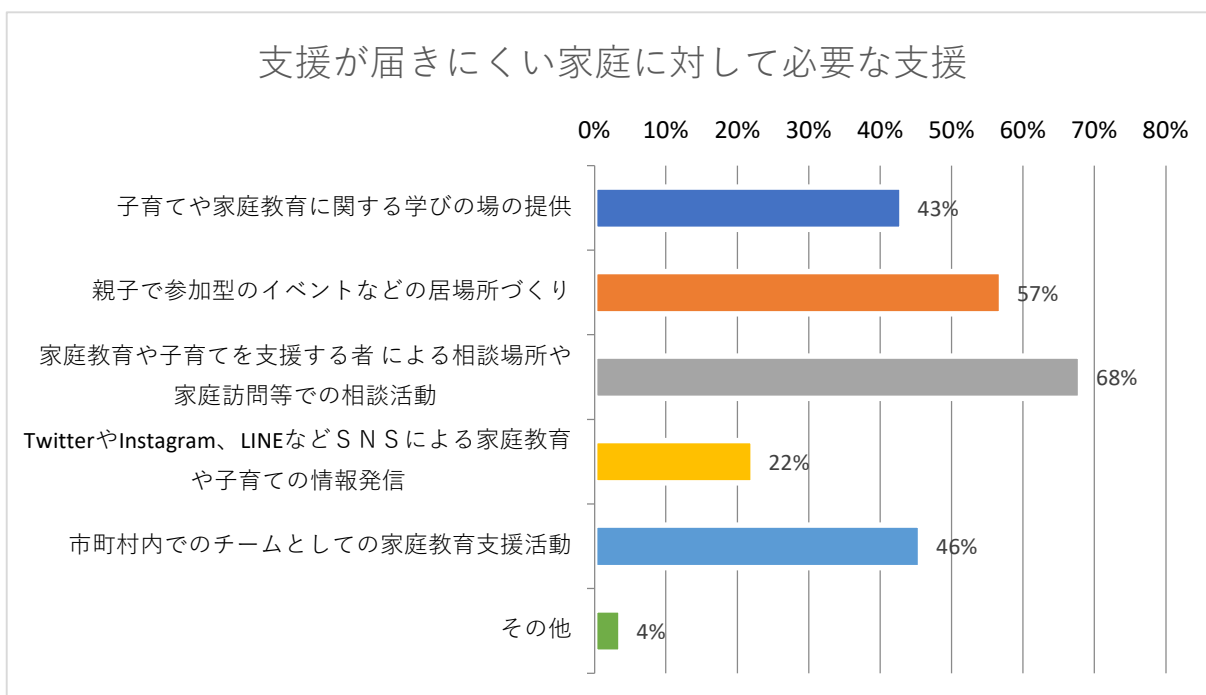
	選択肢	回答数	割合
1	子育てや家庭教育に関する学びの場の提供	198	43%
2	親子で参加型のイベントなどの居場所づくり	262	57%
3	家庭教育や子育てを支援する者による相談場所 や家庭訪問等での相談活動	313	68%
4	TwitterやInstagram、LINEなどSNSによる家 庭教育や子育ての情報発信	102	22%
5	市町村内でのチームとしての家庭教育支援活動	210	46%
6	その他	17	4%
	回答者数	460	—

★ 記述11 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ ケースワーカーの充実
- ・ 支援が届きにくい家庭に子どもがいれば、幼稚園・保育園・こども園、小学校、中学校、高校、と誰かが気付くはず。その時に相談員やスクール・カウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーを通して行政につなげ、必要な支援の情報を提供したり、一緒に活動したりできたらいいと思う。
- ・ 子供にどのような環境が提供されるかは大人（親）にかかっているのでその大人が学べる場、その大人を支援する大人の学びの場が大切である。
- ・ SNSで繋がっていることで、人間関係は十分だと勘違いしている人が増えている。また、人との関わりを避ける人が増えている。自らから地域と関わろうとしないので、地域や機関が連携して総がかりで、高齢・若者単独世帯にプッシュ型支援をして、困り感や情報の共有ができる地域体制づくりを進めないと、虐待事件等は、減ることはないだろう。超少子高齢化、過疎化にコロナ禍、働き方改革が、更に加速させていくように思われる。
- ・ 人とつながる習慣ができるように地域の関わり方をもっと見直していく。
- ・ 独居老人の家族や問題を持つ家庭は、どうしても考え方が閉鎖的になっているように思う。近所の人たちの温かい目や行政の細やかな訪問相談などが大切なのではないかと思う。
- ・ 子どもだけでも駆け込むことができる安全な場所、居場所づくり
- ・ 支援を求めづらい風潮を変革するためのイメージ戦略
- ・ バリアフリーの情報発信（情報弱者を減らすこと）
- ・ 一過性ではなく時間をかけて行うべき。
- ・ 支援が必要な人は誰なのか分かりにくいので、情報が欲しい。

- ・ 行政、自治体、当事者共に交えて対応策を話し合う。
- ・ 支援が届きにくい人は、SNSによる情報をうけ取りにくい環境にいるものと推測する。従って、紙媒体による広報活動が欠かせないと思う。
- ・ 定期的な訪問により関係性の構築
 子育て世帯→児相、役所、学校、主任児童委員など
 高齢障害→基幹、民生委員、役所、居住支援法人など
- ・ 専門家での取組
- ・ 広報等に目を通さない家庭が多いので、情報を直接伝える人材が不可欠



問24

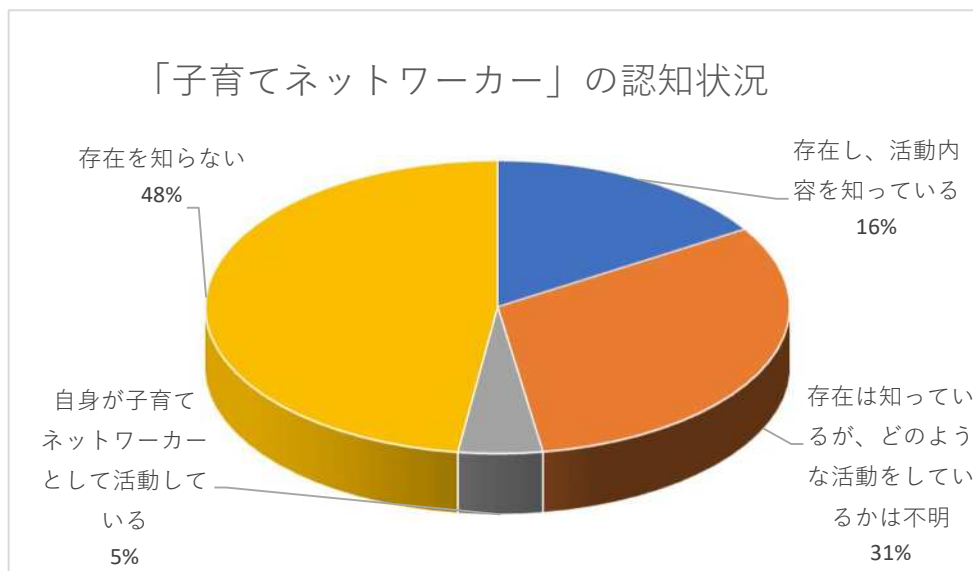
問23の家庭教育支援に関連して、貴自治体には愛知県で養成した地域で家庭教育や子育てを支援する「子育てネットワーカー」（※）がいますか。

※子育てネットワーカー：

県の養成講座を修了し、保護者の子育てについての相談に応じたり、地域の子育てグループや子育てサークルの活動を中心になって支援したりするボランティア

区分	回答数	割合
1 存在し、活動内容を知っている	75	16%
2 存在は知っているが、どのような活動をしているかは不明	142	31%
3 自身が子育てネットワーカーとして活動している	21	5%
4 存在を知らない	216	48%
計	454	100%

無回答6



問25

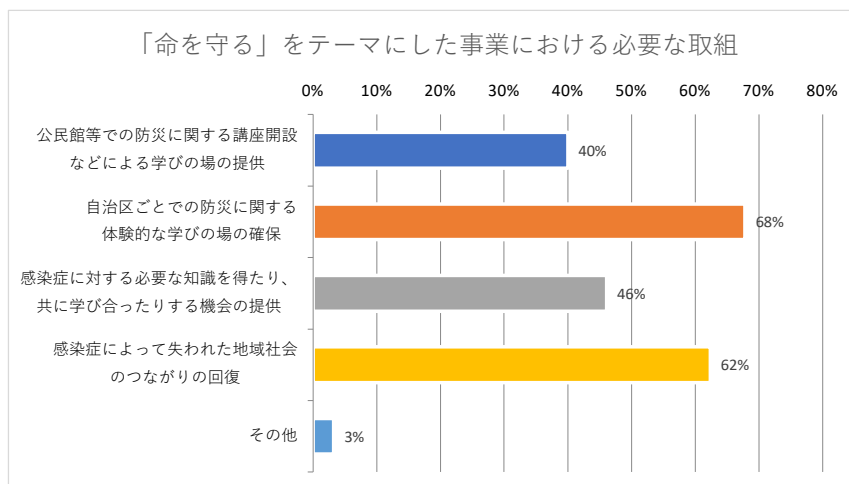
新型コロナウイルス感染症や大規模自然災害などの課題に対し、あらゆる人々の「命を守る」ために、あなたは、どのような取組が必要だと考えますか。
(3つまで複数回答可)

	選択肢	回答数	割合
1	公民館等での防災に関する講座開設 などによる学びの場の提供	184	40%
2	自治区ごとでの防災に関する 体験的な学びの場の確保	312	68%
3	感染症に対する必要な知識を得たり、 共に学び合ったりする機会の提供	212	46%
4	感染症によって失われた地域社会 のつながりの回復	287	62%
5	その他	15	3%
	回答者数	460	—

★ 記述11 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ 行政の、感染者・被災者への素早い支援体制づくり
- ・ 各家庭に対する個別の予防支援（予算化）
- ・ 人の目の届く範囲でのつながり
- ・ 平時からの地域のコミュニケーションづくり
- ・ 企業等自治体に頼らない地域の協力体制
- ・ この問題に限らず、与えられたものの良し悪しを選ぶだけだったり、与えられた情報をうのみにせず、自分達で考え、責任決断できる大人とそうした判断に基づいた決断を尊重することを育む学びの場が必要
- ・ 義務教育終了時（中学卒業時）での貧困や困窮に関する個別具体的な教育（この場合はこのような救済がありここへ電話しなさい等）
- ・ 最悪を想定した地域ぐるみの防災・防犯訓練を実施し、地域の課題を洗い出す機会を、すべての地区がもつ必要がある。独居、単独世帯、障がい者、外国人、性的マイノリティなど、多文化共生に優しい地域づくりをする。企業も参加する体制づくりが必要であると考える。
- ・ 事業推進についての防災や感染症等の専門家の意見・ガイドライン
- ・ 感染症によって失われた地域社会のつながりが何かを解明し再構築
- ・ 防災アプリの活用を進める



○ 人生100年時代と生涯学習・社会教育について

※人生100年時代：

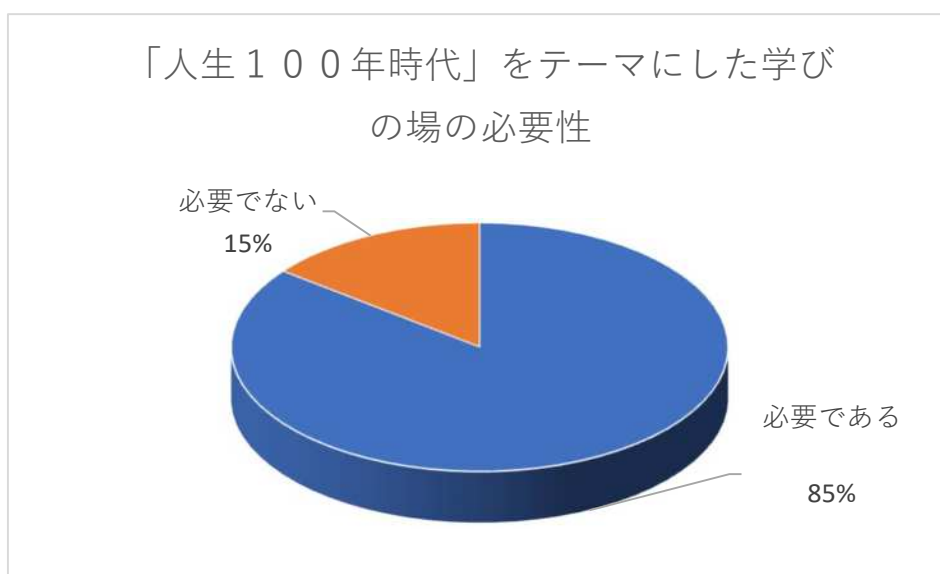
これまでのライフプランでは、「教育—仕事—引退」といった3つのステージが基本的な形であったが、平均寿命が延びることにより人生を100年と捉えたとき、この基本の形が大きく変容する可能性を示唆した言葉。定年後の働き方や健康づくり、学び直し、きずな作りなどの多様な生き方・暮らし方といった人生デザインが必要となっている。海外の研究では、日本では2007年に生まれた子供の半数が107歳より長く生きるとされている。

(参考：厚生労働省「人生100年時代構想会議中間報告」)

問26 あなたは、「人生100年時代」に対応し、人々が充実した人生を送るために、必要なときに必要な学びを得られるような学びの場づくりは必要だと思いますか。

	区分	回答数	割合
1	必要である	388	85%
2	必要でない	66	15%
	計	454	100%

無回答6



- ★ 記述13 前問で「必要である」と答えた場合は、どのような内容の学びの場が必要だと思えますか。その概要を記述してください。

地域・人との関わり
・ 文化活動に加えて友達作りもできるようにすること
・ 地域社会とのかかわりを持ち、生きがいを持って生活できるための学びの場
・ 趣味や興味を共有できる仲間づくり
・ 高齢になっても自力で行ける距離に、集まれる居場所が必要
・ 自らの生き方とつながる地域（ふるさと）づくりの過程が人生100年時代の学びの現場になると思う。
・ 誰もが社会との関わりを持っていることを実感できる場（家族以外と接することが大事だと思えます）
・ 地域社会への参加につながる学びの場
・ 学びの欲求があれば少しでも応えてあげたい。学びの欲求があるということは、さらなる向上心があるということです。生きる力を高めることができます。心配なのは、何にも関心を示さないことです。家族や地域とも関係を遮断している人にどのように接したらよいのかわかりません。
・ 地域でのコミュニケーションが希薄となる中、まずは隣同士の絆から始める。
・ 学びの中で、コミュニティと繋がる場
・ 「学びの場」は手段であり、人と人とのつながりを続けていくことが大切であると考え
る。
・ いつもいつも学ばなくても、そこに行けばおしゃべりする人がいる、というような居場所づくりが必要だと思う。おしゃべりから得る情報、ネットワーク、存在確認（生存確認）、にもなる。でも、その場に見届け人（行政？NPO？）は必要だと思う。
世代間交流
・ 地域の人々が世代を超えて気軽に集まり交流や情報交換を図れる場の提供
・ 孫世代と関われる多世代交流の場所
・ 子供が通う小学校では、聴講生制度として、年齢に関係なく学びの門戸を開いていて、そのことは児童にも良い影響を与えている。本人にはもちろん、年齢を超えた学びの場はよいことだと思う。
・ 幅広い世代が交流しながら共に学べるような場
健康づくり
・ 体力、知力が衰えることに対応した学びができるようにすべき。
・ フレイル予防体操
・ 日頃の運動や食事に関して学ぶ場
・ 病気にならない体を作る学び
・ 健康寿命を長くするための方法

<ul style="list-style-type: none"> ・ 長寿の3本柱は「生きがい」「食事」「運動」と言われている。その中でも「生きがい」が最も重要であり「生きがい作り」に関する、研修や講習を社会教育研修会やその他の中で行う必要があると思う。
学びの場
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体の施設で様々講座などを無料で受けられるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館講座の充実、地域で気軽に集えるサロンの増加、暑い夏にはエアコンの効いた場や図書館などの学べる場の提供
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域公民館を利用し、定期的な体操教室やサロン形式でゆっくり時間を過ごせる場が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人によって様々なケースがあるので、多様な場や機会を提供し選択できるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各中学校区に生涯教育学校を開設（いつでも どこでも だれとでも）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校区で老若男女問わず集まることができ、地区の諸問題について話し合い解決していく力を養える場があるとよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ DIY、農業、料理、プログラミング、各種スポーツなど、幅広く基礎を教えるような場が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊ぶ（スポーツでも趣味でも学問でも楽しければ何でも）ことを学ぶこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰でも容易に学びの場につながることの出来る手段が必要
自立
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人でも楽しく生き生きとした生活ができるような工夫した活動を知ることができる内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 退職後の生活をしっかり送れる様、自立を促す学び
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分達で考え、責任決断できる大人とそうした判断に基づいた決断を尊重することを育む学びの場が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢になってもなるべく自立した生活ができる学び
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人として必要とされる。人の助けを待つのではなく、自ら動き参加する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今を生きる事にさえ苦難を感じる事の多い人達が増えているように感じる世の中で、未来までどう見据えたらいいのか真っ白な中に進んで行くようなイメージが強めなので、前向きに向き合えるような時間や情報があるとよいかと感じる。
社会への還元
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがいに繋がるような趣味や特技のを見つけ方やその活かし方（機会・場の情報提供を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事をリタイアした後の活動場所や内容等自分を生かす方法を考える場
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世間から必要とされる喜びの場
社会の変化への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば p c とかスマートフォンなど社会の変化についていけるような学びの場
<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T 機器の活用講座

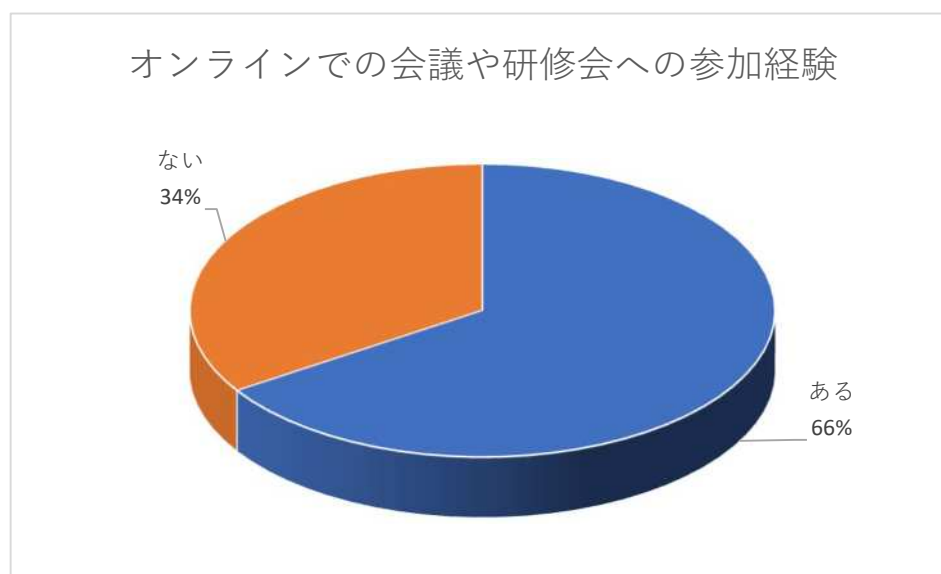
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、DXが進んでいく中で高齢者が取り残されないようインターネットの使い方について学ぶ機会が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化が早いいため、新しい課題が次々に出てくることへの対応が必要であり、その時々正しい情報を手に入れることができるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少なくとも高齢者にZOOMやSNSなどのWEB上のコミュニケーション知識は必要だと思う。
相談の場
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとりひとりが困難に向き合った時に、相談する場所がどこかにあるという情報を知る機会が必要。自治体などが、情報を発信し続けることは重要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的な支援制度を学習する場
人生設計
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身のライフステージ毎にライフスタイルをイメージしていけるような、「人生の時間割」を考える学びの機会を作る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人生設計の組み立て方やその視点、実例の紹介
リカレント教育の拡充
<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアをやり直すことを支援する学びの場（職業訓練を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に大学等が公開講座等を充実させて、成人から高齢者の学び直しに力を入れる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジできる空気感を行政、民間が一体となって醸成し、徹底した受け皿を用意すると同時に個の能力を伸ばし突出した人材を創出すること
生活
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護と家族の関わり。その人それぞれの本当に幸せな最期を迎えるために、看取りまでの大切な時間を医療的なことを含め学びの場があった方がいいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 不安は経済面が多い。安心して老後を生きられる術、今から始めておくべき事等を学ぶ場が必要

○ Society5.0、ICTの活用について

問27 令和3年度、あなたはオンライン（ZoomやCisco Webex Meetings等）での会議や研修会に参加をしたことがありますか。

	区分	回答数	割合
1	ある	300	66%
2	ない	156	34%
	計	456	100%

無回答4



問28

問27で「ある」と答えた人にお聞きします。あなたは、オンラインでの会議や研修会は、コロナ禍が収まった後も人と人をつなぐ新たな方法として有効だと思いますか。

	区分	回答数	割合
1	思う	156	52%
2	思うが課題もある	133	44%
3	思わない	11	4%
	計	300	100%

該当者300

操作の不慣れ

- ・ 参加する側も主宰する側もまだまだ不慣れ
- ・ 機器の活用スキルや周辺機器の設置等が必要で、うまくやれない場合がたびたび出てくる。
- ・ オンラインが使えない方たちがまだ多くいる。
- ・ 高齢者には対応が無理。
- ・ 不慣れな人もできるように、本人の努力も必要だがサポートも必要
- ・ すべての人がパソコンを持ってないこと。あったとしても使えないこと。

オンラインへの抵抗感

- ・ オンラインへの拒否感を感じる世代へのアプローチ

議論の深まり

- ・ 社会教育委員の集まりは対面こそが必要
- ・ 意見交換や会議のように相手の反応を見ながら話し合いが進むようなことについては不向きと思う。
- ・ 対面こそ議論が深まる。
- ・ 一方的な情報の伝達になりがち。
- ・ オンラインでは、その人の発言の真意が伝わりにくい。
- ・ オンラインで講話を聴いたが、感動が違ったように感じた。
- ・ 意見交換や採決には、適しているが、多数での議論や方向性を決めるには、ハードルがあると感じる。
- ・ 会議の内容が、予定調和的になりがちに感じる。
- ・ 会議等の全体の雰囲気、気がつかみにくいので、発言のタイミングをとりづらい。
- ・ 発言者が限られる。発言がしにくい。

参加者のつながり

- ・ コミュニケーションが十分とれない。
- ・ 自分もそうだが、機器に苦手意識を持つ人が多いのでは。不具合もおきやすい。人の顔、表情、声色、等 人にとって大切なあたたかな関わりが簡素になりそう。楽しみ、やりがい、思いを感じあったり、共感できる事を願う。

- ・ 内容の伝達はできるが、委員相互のつながりづくりはできない。
- ・ オンライン参加者が少数だったこともあるが、だたの「観客」になりがち。
- ・ 生のふれあいによってしか得られないものがある。そういった結びつき自体が目的の場合、オンラインはあくまで代替であり、完全に移行することはできない。
- ・ 表情、つぶやき、雑談等が相互理解には欠かせない要素であり、オンラインでは生み出せない。
- ・ 場の空気感が伝わらない。

参加者の意識

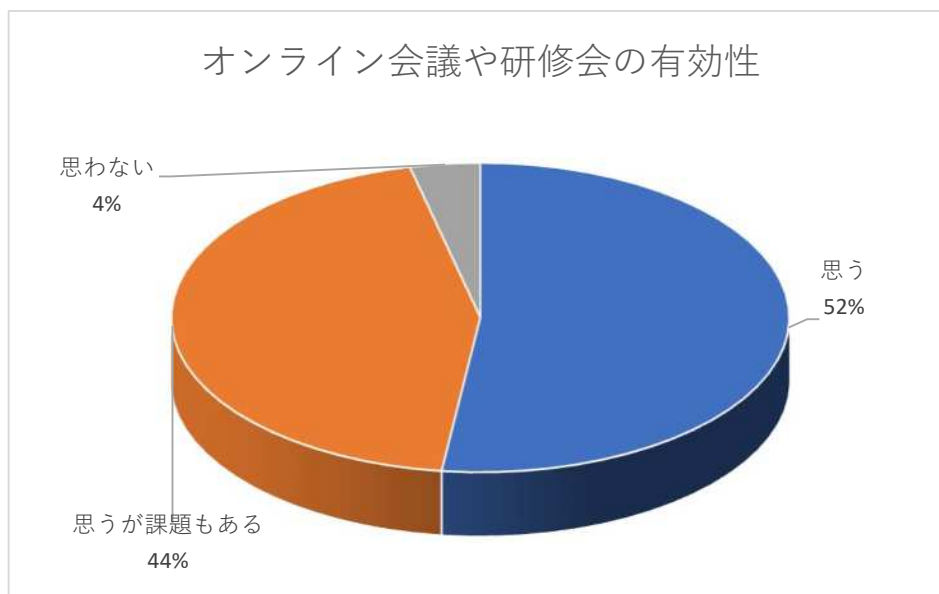
- ・ 会議に参加しているという意識、責任感が弱くなるように感じる。
- ・ 会合の内容がだんだんと他人ごとのように思えてくるときがある。

内容の理解

- ・ 話が伝わりにくい。生での講演の方が理解しやすいし、内容も入りやすい。
- ・ 特別な場合を除いて、対面方式の方が実技等も可能な為より実践的な会議になると思う。

集中力の欠如

- ・ オンライン参加中に他ごとが気になって集中できない。

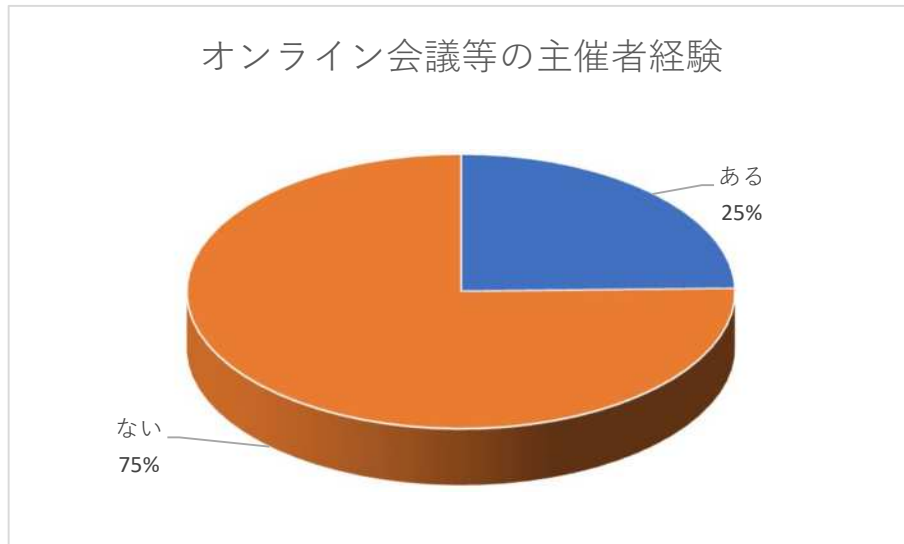


問29

問27で「ある」と答えた人にお聞きします。令和3年度、あなたは社会教育委員としての業務に関わらず、オンライン（ZoomやCisco Webex Meetings等）での人との集まりを自ら開催したことがありますか。

	区分	回答数	割合
1	ある	72	25%
2	ない	220	75%
	計	292	100%

該当者300



問30

新型コロナウイルス感染症により人と人との接触を避ける「新しい生活様式」の中、社会教育を維持するためのオンラインを活用した取組の充実に向け、あなたは、貴自治体においてどのようなことを充実させる必要があると思いますか。

(3つまで複数回答可)

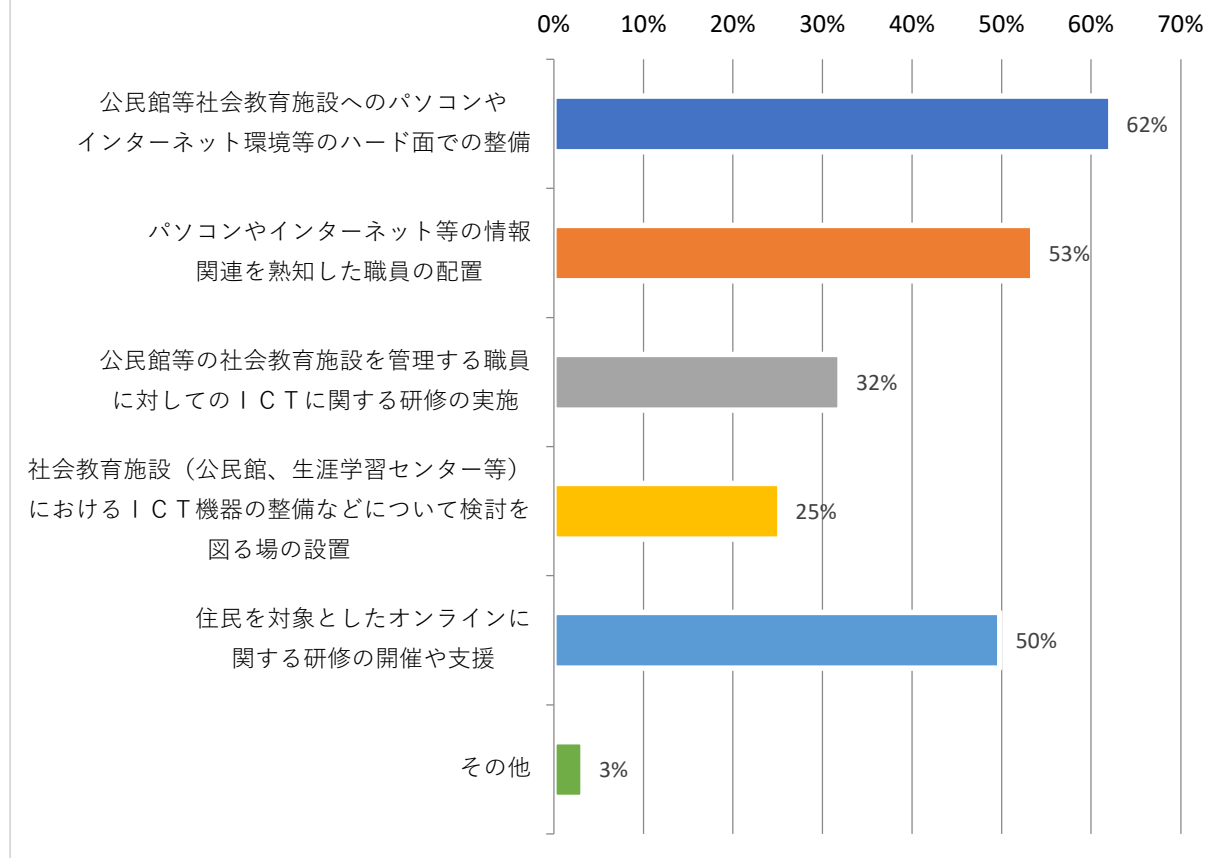
	選択肢	回答数	割合
1	公民館等社会教育施設へのパソコンやインターネット環境等のハード面での整備	286	62%
2	パソコンやインターネット等の情報関連を熟知した職員の配置	246	53%
3	公民館等の社会教育施設を管理する職員に対するICTに関する研修の実施	147	32%
4	社会教育施設（公民館、生涯学習センター等）におけるICT機器の整備などについて検討を図る場の設置	116	25%
5	住民を対象としたオンラインに関する研修の開催や支援	229	50%
6	その他	15	3%
	回答者数	460	—

★ 記述15 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ 安全なフリーWi-Fiの提供
- ・ 行政がその必要性を持たない限り、始まらない。要は行政のトップのやる気次第である。
- ・ 私の周りの老人にはパソコンに対して拒否反応を示す人が多く、また目と目を合わせた講義でないに関心を示さない人が多いのが現状である。こうした意識への啓発が必要である。
- ・ セキュリティに関すること（堤美果の著書「デジタルファシズム」を読むと、セキュリティが心配でならない）

オンラインを活用した取組の充実に向けて必要なこと



問31

人と人との接触を避ける新しい生活様式の中にもありながらも、人が集い、学び合う社会教育を維持するために、あなたは、どのようなことを充実させる必要があると思いますか。（3つまで複数回答可）

	選択肢	回答数	割合
1	感染対策に必要な物品等の整備	156	34%
2	活動にあたるガイドラインや指針	282	61%
3	オンラインでの会議や講座ができる施設や備品の整備	306	67%
4	オンラインでの会議や講座を運営する職員のデジタルスキルの向上	199	43%
5	その他	26	6%
	回答者数	460	—

★ 記述16 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

行政のビジョン

- ・ 行政がその必要性を認識し、必要な環境整備を進めるかどうか。行政トップの判断次第だと思う。
- ・ オンライン会議や研修に関しては、ハードの充実や職員のスキル（ソフト）の向上を図るより前に、まずはアウトソーシング等により実施して、効果と課題を知ることが必要である。

対面での活動を継続

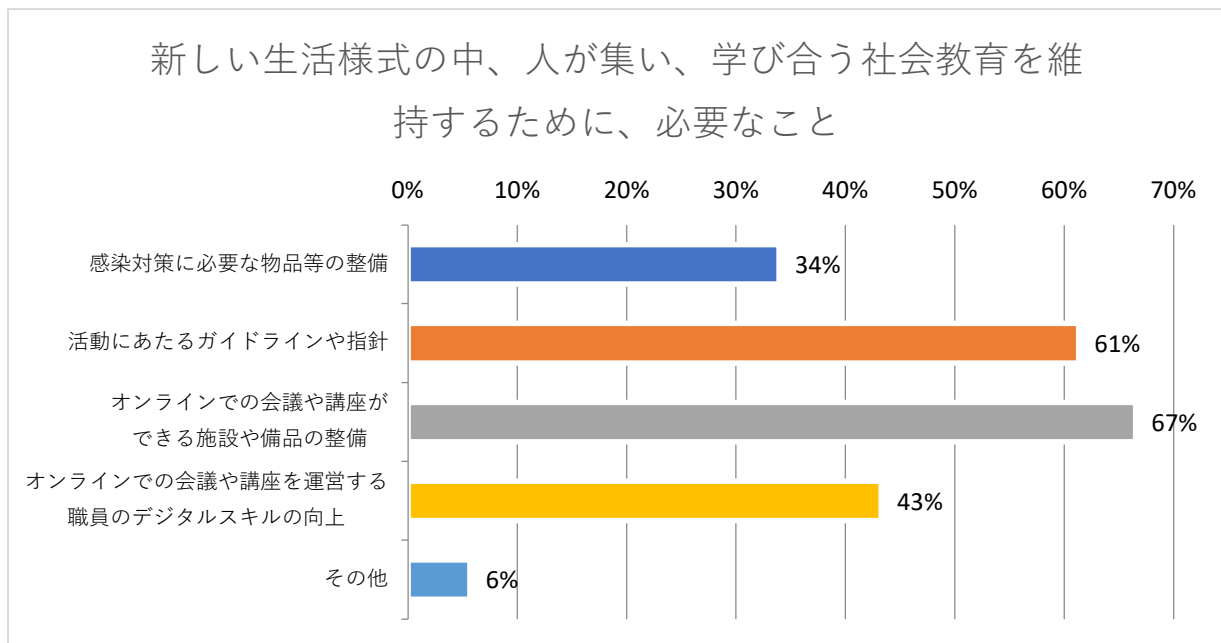
- ・ 人と人は繋がらないと生きていけないし、感染症下であっても仕事など、あたりまえに人と人は対面で繋がって暮らしているので、この問題にだけ、接触を避けることは意味をなさないと思う。各自で感染症に注意して合えばいい。感染症にまつわる問題はすでにそういうフェーズにはないと思う。
- ・ 接触を避けるのではなく、対面での付き合いや学びが重要だと考えるので、あまり接触を避けることのみを重視しない。
- ・ 人は人と繋がることを希求している。オンライン等も有効な手段であると思うが、集う方法等を検討することも必要かと思う。
- ・ 人が集うリスクのみが強調されがちの中で、人が集うことの意義や価値を言語化、具現化して伝えることが大切である。
- ・ 密にならないための複数の広い会場の整備

熟議

- ・ ユーチューブやグーグルフォームなどICTのメリットを有効活用したまちづくりを推進する。SNS派もアナログ派も共に偏見をもたず、相互に理解する場が必要。話し合いをすれば、本音と言えるようになり、人のよさに出会えるはず。

感染症に負けない健康づくり

- ・ 何でもかんでもオンラインにするのではなく、感染症に強い身体を作るための知識の普及などに力を入れたい。



○ 地域活性化の推進について

問32 人口減少による活力低下や様々な地域の課題を克服する地域の活性化や地域づくりが重要となっています。貴自治体では、学校を核とした地域づくりとなる「地域学校協働活動」(※)や地域と共にある学校づくりとなる「コミュニティ・スクール」(※)を進めていますか。

※地域学校協働活動：

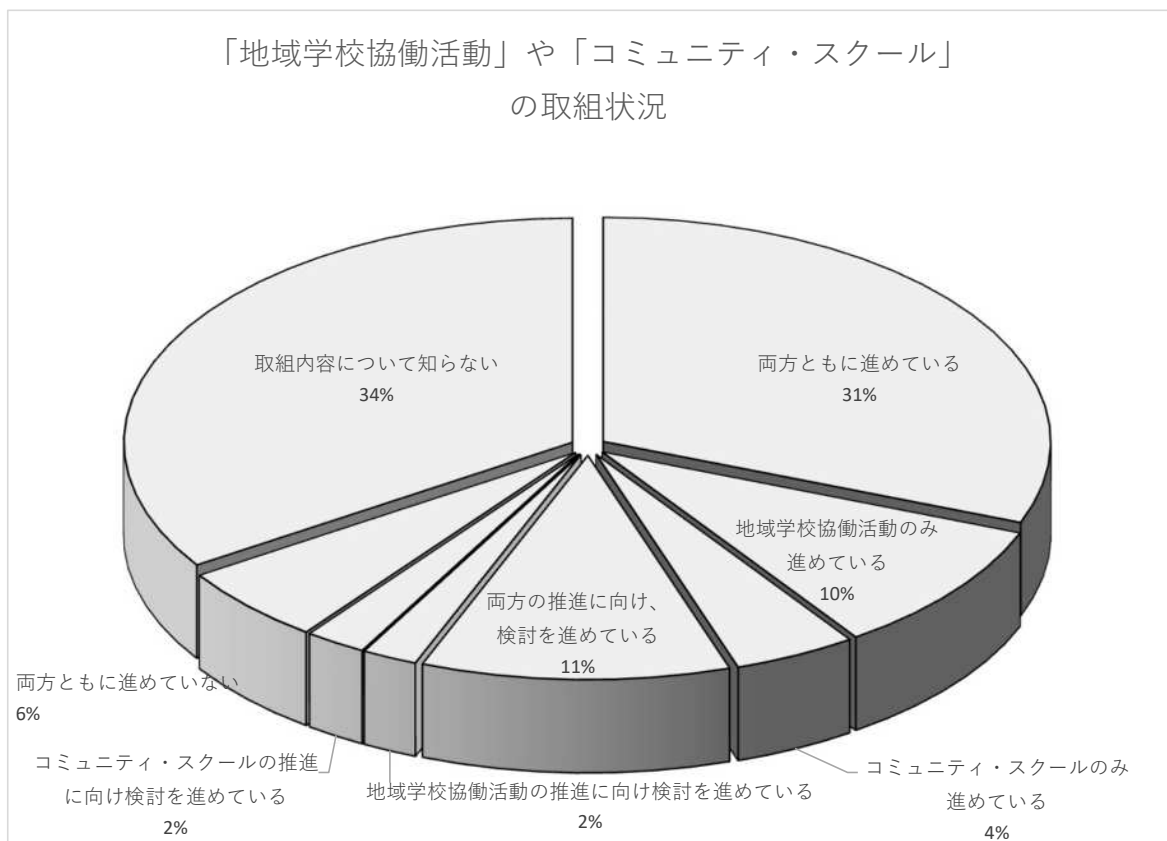
より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等の参画を得て、地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動

※コミュニティ・スクール：

地方教育行政第47条の5に基づき、地域住民や保護者等の意見を学校運営に反映させる仕組みとして、教育委員会が設置するもの。学校運営協議会を導入した学校をコミュニティ・スクールという

区分	回答数	割合
1 両方ともに進めている	139	31%
2 地域学校協働活動のみ進めている	43	10%
3 コミュニティ・スクールのみ進めている	20	4%
4 両方の推進に向け、検討を進めている	50	11%
5 地域学校協働活動の推進に向け検討を進めている	9	2%
6 コミュニティ・スクールの推進に向け検討を進めている	10	2%
7 両方ともに進めていない	25	6%
8 取組内容について知らない	154	34%
計	450	100%

無回答10



○ 成年年齢の引き下げについて

問33 令和4年4月に民法の改正により成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これにより、選挙権の年齢の引き下げとともに、積極的な社会参加が期待をされます。あなたは、どのような点について若者の社会参加を期待していますか。（2つまで複数回答可）

	選択肢	回答数	割合
1	地域のボランティア活動への参加	314	68%
2	選挙での投票など、積極的な政治参加	271	59%
3	サークル等を立ち上げ、地域住民の参加による活動の展開	129	28%
4	その他	25	5%
	回答者数	460	—

★ 記述17 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

地域活動

- ・ 地域活動への参画
- ・ 学生公募というものを設けて会議などに参加してもらう。
- ・ まずは自分たちの住む地域がどんな地域か関心を持ってもらうこと。
- ・ 行政への関心が持てる講座
- ・ 地域活動に参加し、地域をまず知ってほしい。
- ・ 学校教育と社会教育の両者参画（繋ぎ役に期待）

大人のモデル

- ・ 義務と権利の履行を大人が先に献身的に若者に見せる機会が必要

社会への関心

- ・ 新聞やニュースに関心を持ち、若者目線で社会の問題点を積極的に見つけ、改善点を見出してほしい。

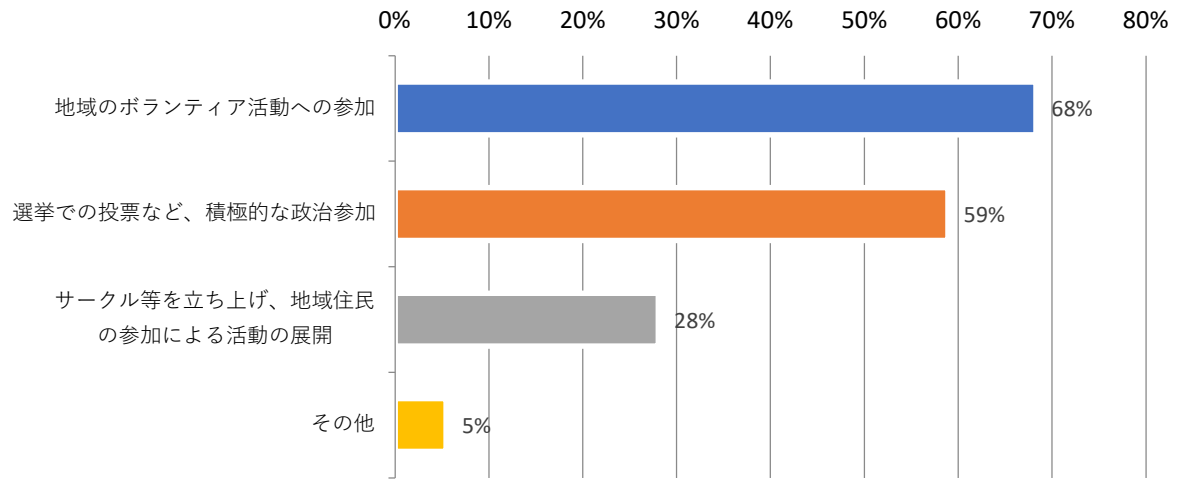
学ぶ場

- ・ 大人としての自覚と責任を再確認してほしい。
- ・ 権利は持つことができたが、義務を果たせるよう、学ぶ活動の展開が必要

期待の押し付けへの危惧

- ・ きちんとした主権者教育、地域にまつわる教育が学校だけでなく各家庭で行えない現状にあって若者に対する大人の定義の若年化を進め、その上、積極的に社会との接点を持つてというのは酷な話である。どうして若者に期待し、背負わせることばかりが選択肢となっているのかが疑問である。
- ・ 期待を押し付けるのはかわいそう。
- ・ 何を期待して下げたのか、その趣旨を作成した人たちの見解がほしい。

若者の社会参加において期待する内容



問34

成年年齢が引き下げられ、若者の社会への参加が期待される反面、これまで以上に若者の社会的自立に向けた支援が必要となります。あなたは、貴自治体において、若者の社会的自立の支援に向け、今後、どのような取組が必要だと考えますか。（3つまで複数回答可）

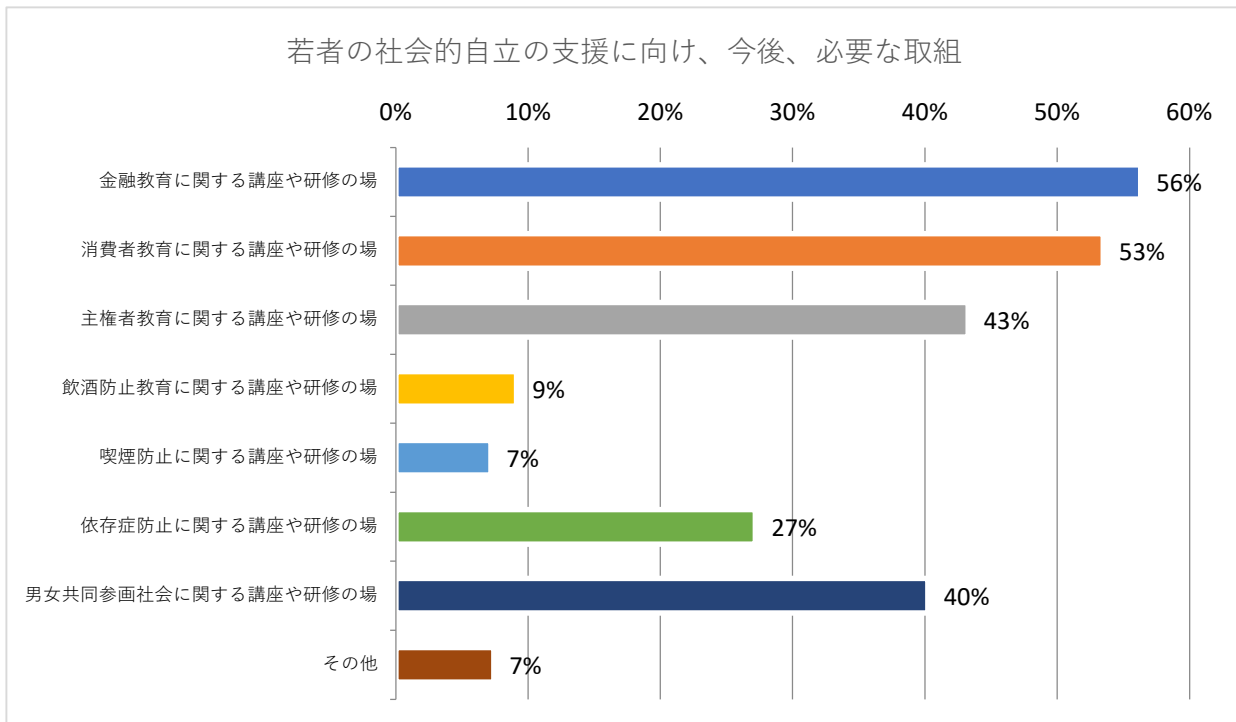
	選択肢	回答数	割合
1	金融教育に関する講座や研修の場	259	56%
2	消費者教育に関する講座や研修の場	246	53%
3	主権者教育に関する講座や研修の場	199	43%
4	飲酒防止教育に関する講座や研修の場	42	9%
5	喫煙防止に関する講座や研修の場	33	7%
6	依存症防止に関する講座や研修の場	125	27%
7	男女共同参画社会に関する講座や研修の場	185	40%
8	その他	34	7%
	回答者数	460	—

★ 記述18 前問で「その他」と答えた場合は、その概要を記述してください。

※同じ意味内容の回答は抽象化して統合

- ・ 起業したい人向けの支援
- ・ 都会に夢見て、故郷を去る前に、故郷でも起業することが可能な実例を見せたり体験できるアントレプレナー教育を地域が主体となって、育てることで若者の更なる社会貢献が期待できる。
- ・ 家庭教育に関する講座や研修の場
- ・ 何か犯罪を犯した時のリスクについて、失うものの大きさや自分以外の人々の悲しみなど、想像力を働かせて物事を考えられるような勉強会も必要だと思います。映画などを見て感情豊かに学ぶことも大事だと思います。
- ・ 人生デザイン教育
- ・ 困難な問題を抱えながら成人となり、保護を失うことになった若者への具体的な支援
- ・ 貧困学生への手厚い支援が必要。ボランティアに参加したくてもアルバイト等で参加できない学生がたくさんいる。
- ・ スポーツやレクリエーションを通して男女が交流できる場がほしい。
- ・ 地域活動への参加の意義に関する講座
- ・ 町づくり会議やまちづくり関連のボランティア参加

- 一部の政治家の意図により、自分たちを利するために、急に選挙権の年齢が、子供たちの準備期間もなく始められた。「他の国では」という言葉で誘導していたが、日本では一部の政治家たちの意図で教育と政治や社会は切り離されていた。他の国とは違う。教育現場で本当にまじめに社会や政治を議論する場を持つべきである。若者を使い捨てにしてはいけない。



「あいちの新たな社会教育のあり方の実現に向けた調査」

調査基準日：令和4年5月1日

愛知県教育委員会生涯学習課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電 話 052-954-6780 (ダイヤルイン)

ファックス 052-954-6962